

座間市学校再編計画素案（暫定版）に関する意見公募（パブリックコメント）意見一覧

募集期間：令和8年6月1日（月）～7月14日（火）

提出者：72名

意見数：105件

※このほか、意見提出要件不備8件がありました。内容及び市の考えを参考として別資料にまとめています。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
1	1	家の裏が小学校であるのに市が違うだけで30分ほどかけて登校するのに疑問を感じる	ご意見として受け止めさせていただきます。 学校教育法施行令第5条で市町村教育委員会は同市町村内にある「どの学校に就学するのか指定する」こととなっています。居住している市町村とは別の他市町村立学校に就学を希望する場合は、希望する市町村教育委員会へご相談いただくことになります。
2	2	本日の丁寧なご説明、誠にありがとうございました。質疑応答においても真摯なご対応に大変好感が持てました。 敢えて辛辣な意見を述べさせていただきます。 1 説明開始直後の動画再生ができなかったトラブルは、よくあるトラブルの一つかと思いますが、事前の入念なチェック及び代替機器の準備など、大事な説明会であるならばあってはならないトラブルかと思います。市長及び副市長隣席の会において、担当者の誠意が疑われてもおかしくない猛省を促す事案かと思っています。 2 「ざまの魅力ある学校づくり『学校再編計画素案』作成に向けた説明リーフレット」は、令和6年3月に”策定されたざま魅力ある学校づくり方針”をもとに学校再編の必要性が、端的にまとめられた資料と拝察いたします。今回のご説明及全般において、「魅力ある学校づくりのために、移転・統廃合・通学区域の見直しが必要であること」をもっと前面に出してご説明いただければ良かったと思います。フロアからの質問にもあったように、これからの子供達と保護者らが、ワクワクするようなメリットを伝えていただければと感じました。 今後の説明会に反映いただければ幸いです。	今後の説明会運営の参考にさせていただきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
3	3	中原小学校の再編にともなう通学区域（学区案）について、入谷東4丁目の保護者として意見書を提出いたします。 2027年4月、および2030年4月に新小学1年生となる子どもを育てる保護者です。中原小学校の廃校にともない、我が家の地区が「入谷小学校」の学区に指定されている計画について、強い不安と疑問を感じており、以下の3点を強く要望いたします。 【理由と背景】 安全性の格差 自宅から立野台小までは1.3km、入谷小までは1.7km、1年生の足では立野台小学校まで30分前後、入谷小学校だと40～50分かかる距離です。 入谷小へのルートは小田急線の線路を越える必要があり、朝の駅周辺の混雑と重なり非常に危険です。さらに、激しい高低差（坂道）が何箇所もあり、近年の40度近い猛暑や、台風、積雪時を考えると、幼い子どもたちの命に関わる過酷な通学路となります。一方で、立野台小ルートは線路を越えず、高低差も少ないためより安全です。 登校時の孤立と親の負担 周辺の多くの子が立野台小学校へ向かう中、この地区だけが逆方向の入谷小へ指定されています。 もし特例で学校（立野台小）を選べたとしても、既存の登校班に入れなくなれば、共働きの親が毎朝1.3kmを付き添うのは現実的に不可能です。 入谷小学校の児童数減少に対する「人数調整」という行政側の事情は理解しておりますが、その数字合わせのために、特定の地区の子供たちだけが『より遠く、より危険な通学路』を強いられるのは到底納得がいきません。 【市への要望事項】 上記を踏まえ、12月の詳細決定までに以下3点の対応・ご回答を求めます。 ①【学区の再検討】 地理的・安全面の格差を考慮し、この入谷東4丁目の対象エリアの指定校を、入谷小学校ではなく『立野台小学校』へ学区そのものを再検討（修正）してください。 ②【就学指定校の変更特例】 万が一、学区の修正が難しい場合、この地区の希望者全員に対して、立野台小学校への『就学指定校の変更特例（選択制）』を無条件で認めてください。 ③【登校班・安全の保証】 特例措置によって立野台小学校へ通うことになった場合、「通学は自己責任」とするのではなく、安全に通学できる新たな登校班の結成や、既存の登校班へ合流できる仕組みを、市と学校の責任において保証してください。 行政の都合により、子供たちが危険な登校を強いられることがないよう、誠意あるご回答と再検討を強く求めます。説明会当日も、これらについて直接ご説明をいただけますようお願い申し上げます。	本計画を策定する際の基本方針となる、「ざま魅力ある学校づくり方針（R6.3）」において、許容される具体的な通学距離を示しており、小学校については、2.2km以内としています。 これらの距離については、現在の通学距離の中で最も長い距離を基準としており、今回お示しする学校再編案につきましても、この基準以内に収まるよう通学区域を検討したところです。 また、通学区域が変更となる通学路については、その距離や交通防犯上の観点を踏まえ、机上シミュレーションに加え、実際に登校時間帯に職員が歩いたり、登校班に同行して時間を計測するなど、実地検証を重ねながらその安全性について分析をまいりました。 なお、最長通学距離の2.2kmは、登校班の平均的な歩行速度である分速60mで進んだ場合、約37分かかる想定としています。 いただいたご意見を参考に柔軟な対応が取れるよう検討をまいります。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
4	3	先日7月11日の説明会に参加し意見を述べさせていただきましたが、時間の都合上、伝えきれなかった重大な懸念事項が多々あるため、改めてこちらより強く意見を提出いたします。 現在、未就学児を育てており、2027年4月および2030年4月に新1年生となる子の保護者です。「未来へつなぐ学校づくり」というテーマを掲げながらも、当日の市側の回答や姿勢には、子どもの命に対する誠意が全く感じられず、強い不安と憤りを抱いております。以下3点について、明確な検証と計画の修正を強く求めます。 ① 入谷東4丁目（現中原小）学区の立野台小学校への「通常学区としての見直し」 「指定校変更許可区域（特例）」ではなく、通常の通学区域（学区）そのものの見直しを強く求めます。 入谷小学校までの通学路は、距離だけでなく、激しい高低差が最大の障害です。帰りの登り坂は「ビル20階の階段を上る」に匹敵する高低差があり、近年の40度近い猛暑の中、幼い子どもが重いランドセルやタブレット、水筒を背負って40、50分かけて歩くことは、明らかに熱中症などによる命の危険を伴います。説明会での熱中症に関する市側の回答は極めて不誠実でした。「選べる特例にするから自己責任で」という態度は許されません。もし市の指定通りに通学し、子どもに生命の危機が及ぶ事態（熱中症での死亡や事故）が起きた際、市は責任を取れるのでしょうか。重大な訴訟問題に発展しかねない机上の空論であり、「安全な通学路」という大前提を根底から覆す現在の素案は断固として受け入れられません。検証と配慮のやり直しを求めます。 ② そもそも「廃校」という手段しかないのかという根本的疑問 市長から中学校の給食費に関する財源のお話がありましたが、全体を通して「廃校」というゴールが先にありきで、後付けの理由説明をされているようにしか聞こえませんでした。 「1クラス35人」という基準に縛られる必要はありません。子どもの安全や地域の特性を考慮し、少人数学級のメリットを活かした地域適応型の人数規模であっても良いはずです。また、現代の小学生の荷物の重量化（タブレット、教科書、重い水筒など）は深刻であり、学校は近いに越したことはありません。 在学中に母校が消え、後輩が入ってこない寂しさを味わう子どもたち、環境の変化に馴染めず苦しむ子どもたちなど、廃校によって生じる多大な精神的犠牲や負担を、市は「致し方ない犠牲」と軽視していませんか。真に子どもたちの未来を見据えた財源確保の方法について、本当に廃校以外の選択肢をすべて検討・検証し尽くしたのか、強い疑問が残ります。 ③ 当事者である「未就学児世帯・妊婦世帯」への周知不足と意見集約の機会確保 今回の再編計画で最も影響を受けるのは、現在保育園に通う未就学児や、これから生まれてくる世代の子供を持つ世帯です。しかし、この重大なプロジェクトが当事者に全く届いていません。私自身、友人から聞くまでは知らず、周囲のママ友に伝えても「誰も知らなかった」というのが現実です。 市のホームページや市役所の掲示を自ら見に行く市民はごくわずかです。本当に子育て世代を応援する街であるならば、各保育園や幼稚園への個別チラシ配布、玄関への素案資料設置、子育て支援センターや産婦人科など、必要な人に情報が直接届く情報提供の努力をしてください。原案が固まってから意見を聞いても修正は不可能です。暫定版である今こそ、多くの市民に周知すべきです。 また、今回の説明会も「子どもが小さく、預け先がない」という理由で参加を断念した子育て世代が多数います。当事者がきちんと発言できる場（託児サービスの設置やオンライン開催など）の確保を強く要望します。 市側におかれましては、今回の再編計画を他人事と思わず、「自分の子どもがこの過酷な環境に置かれたらどう思うか」という当事者目線に立ち返っていただきたいです。「自転車通学の許可」なども、昨今の交通規定の厳罰化や車道走行の危険性を鑑みれば、かえって事故のリスクと訴訟案件を増やすだけではないでしょうか。 机上の空論ではなく、子どもたちの安全と、子育てしやすい本当の街づくりを強く求めます。その結果こそが、座間市の人口維持と財源確保に繋がるはずです。誠意あるご検討と、書面でのご回答をお願い申し上げます。	ご意見として受け止めさせていただきます。 夏場の熱中症対策や通学時の荷物等の負担軽減については、学校再編に関わらず、対策の検討を進めていきます。 本計画素案（暫定版）は、教育委員会以外にも、政策、財政、公共施設マネジメント、地域コミュニティ、都市計画といった担当などから構成される分野横断的な検討体制で、学識経験者からアドバイスをいただきながら1年間に渡り、慎重に検討を重ねて、作成しました。 また、本計画のもととなる「ざま魅力ある学校づくり方針」についても、保護者、学校、地域、学識経験者で構成する検討委員会で、2年間に渡り協議、検討したほか、児童生徒の保護者、教職員等を対象としたアンケート結果などを参考に策定しており、慎重に検討を重ねてきた経過があります。 今般の説明会では、子育て世代が参加しやすいよう、6/14に市役所で開催した全エリアを包括的に説明した回については、保育サービスを用意して運営しました。 開催手法や広報・周知方法については、従前の手法にとらわれず、より参加しやすい方法を今後も模索してまいります。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
5	3	追記 ④ 小学校統廃合に伴う学童保育（放課後児童健全育成事業）への影響について 小学校が統廃合（減校）されることに伴い、学童保育の受け皿が減少し、現在でも深刻な待機児童問題がさらに悪化することを強く懸念しております。学校数が減っても地域の児童数や需要が減るわけではないため、以下の2点について具体的な計画や対策をお聞かせください。 1. 学童全体の定員枠の確保について 中原小学校の廃校に伴い、同校の学童が担っていた受け入れ枠（定員）は、地域全体でどのように維持・補填される計画でしょうか。単に「2校分減る（受け皿が縮小する）」という認識で相違ないか、明確な方針をご説明ください。 2. 立野台小学校の学童拡張における過密化対策について 仮に立野台小学校の学童クラブを拡張して児童を集約する場合、施設内の混雑（過密化）が懸念されます。「子どもたちが過ごす部屋が狭くなる」「指導員の目が届きにくくなり安全面のリスクが高まる」といった課題に対し、スペースの確保（教室の転用や増築など）や指導員の配置基準について、どのような具体的な対策を考えておられますか。	児童ホームについては、再編後も必要な規模を確保していくため、再編に起因して縮小されるということはありません。統合時の具体的な対応については、今後検討を進めていきます。 再編は直ちに行うものではなく、児童数が減少し、ご指摘のような諸課題が起こらない時期に行います。また、再編の際、受入れ先となる学校は、受入れが出来るよう必要なハード面の整備も行う想定です。
6	4	中原小廃校に伴い、学区再編が行われるとのことですが、それにより通学に40, 50分かかって親子ともに負担が大きくなると友人から聞きました。入谷東4丁目です。入谷小学区になる予定と計画されています。 通学の負担だけでなく、これまで一緒に通学していた友達と学区再編により離れてしまう可能性があることも懸念されています。学区が突然変わることは、そこで生活する人たちにとっては一大事です。 友人の場合は、通学距離からも、入谷小ではなく立野台小学区にしてほしい、もしくはどちらか選べるようにしてほしいと言っています。 子どもと保護者の生活に関わることなので、学区編制の再考をお願いします。	ご意見として受け止めさせていただきます。 その他については、意見No. 4の回答をご覧ください。
7	5	学区再編など時代に必要な変更は必要かとは思いますが、子供達が通学するのに、片道30分以上かかるような通学は子供達の負担を増やします。例えば片道2kmを超える場合など、必要な条件を設定の上、希望するものは学校申請の上自転車通学を認めることも検討していただきたいです。	望ましい学校配置に関する御意見として受け止めさせていただきます。 なお、中学生については、自転車通学導入について検討を進めてまいります。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
8	6	暫定案を拝見しました。 本来なら、住民説明会に行きたかったのですが、子どもが体調が悪いのでお休みをさせていただきました。 私も同業なのでどういう経緯かはとても理解できます。 その上で、1点お願いというか、ぜひ検討してほしいことがあります。（すでに検討されていた場合はすいません） 現在、旭小学区に居住しており、今後、ひばりが丘小学校に入学することは理解できました。（現在、0歳です） 計画表を見ると、R18年度以降に廃校ということなるようですが、在学中に廃校になるのはちょっとどうかなと思います。 というのも、廃校になるのは致し方ないことではあると思いますが、在校児童の心理的負担が大きいのではないかなと思うからです。例えば今回と件に関して、スクールカウンセラー等々でケアをすることとしても、子どもたちの1番の拠り所は担任だと思います。 担任も色々和学校等が変わることによって、バタバタすることもあると思います。もちろん、子どもたちを第一に考える先生方であってほしいなと思う反面、人間なのでなかなか全部児童たちの相談に乗るということは難しいと思います。 そして、児童たちが新しい学校に慣れるまでは時間がかかると思います。 昨今の子どもたちの様子を見ていても、なかなか環境が馴染めずに不登校に。また、同じ学校に通っていて仲良かった子がいたのに、今回の再編等々で別の学校になってしまって、学校自体に不安を感じ、結果不登校等につながってしまうということもないことないかなと思います。 もちろん今回の件で不登校等々をゼロにすることはできないとは思いますが、極力減らせることはできるのかなと思いますし、子どもたちへの心理的負担を軽減しながら学習などに向かうことができるのではないかなと思います。 そのため、廃校6年前から段階的に現在は旭小学区だけど、ひばりが丘小へ入学していくということをしてもいいのかなと思います。 例えば…(R20年3月末に廃校とした場合) R15年4月に入学する1年生は旭小へ入学する。その後、6年間(R15.16.17.18.19.20)を旭小で過ごし、そのまま東中へ進学。 R16年以降に旭小に入学する予定だった児童については、ひばりが丘小へ入学。卒業後は東中へ進学。 としたほうが、段階的に準備もすることができ、児童の心理的負担も軽減するのではないかなと思います。 また、R15年に入学した旭小の児童は、自分たちの学校に愛着を残し、6年間過ごした校舎へ感謝をすることができるのではないかなと思います。 ただ、懸念としてはR15年入学の子たちは学年が上がるにつれて、全校児童が減少するため、縦割り活動等がしにくくなるのではないかなと思いますが、そこは旭小とひばりが丘小が近隣にあることを最大限活用し、交流を行うという方を取ってもいいのではないかなと思います。（いずれは、東中で出会う仲間だと思うので） 大変長くなってしまい申し訳ないのですが以上です。 同業なので、この計画を考える大変さが想像できます。ただ、いち保護者として、座間市の今回の統廃合の件で、朝日小に限らず、統廃合をするすべての子どもたちが、新しい学校でも自分らしく、そして新しい仲間とも協力しながら学びを深めてほしいなと思います。 そして、私も同業としてその空間で子どもたちと学び合いたいと思います。 どうか前向きに検討をお願いします。	再編の手順については、ご指摘のとおり、入学制限を行った場合、最終的に6年生だけが残る学校となり、行事や縦割り活動等への支障が出るのが懸念されているため、ある年をもって、全員が一斉に転校する方向で検討を進めています。 ただし、兄弟、姉妹と同じ学校に通わせたい、途中での転校を避けたいなどの理由で、予め再編先の学校に通いたいという声も一定数あることを認識していますので、再編する年の6年前から、移行期間として、再編前後のどちらの学校にも通えるような柔軟な対応ができるよう検討しています。 いただいたご意見を参考にしながら、検討を進めてまいります。
9	7	中原小学校廃校 反対 子供の安全面を考えて反対です なんとしても反対です 子供たちの環境を考えても反対です ここまでする事を無理やり今すぐやる必要はありません反対です	ご意見として受け止めさせていただきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
10	7	本日1件目の学校再編計画について反対意見をしました。 そして意見追加でよろしくお願いします。 この学校再編計画について廃校対象学校での学校側生徒側両方からのアンケート 地域住人へのアンケート合併側サイドのアンケートを この意見募集をしている6月1日～31日までの期間に市の方から全住人にアンケート実施を希望します やり方は手紙でも自治会を通し回覧板でもそれぞれのやり方に合わせて対応お願いします。 立野台小学校側には中原小学校生徒がいくことにより立野台3丁目西栗原にいる移民やら外国籍の方達の話はしていますでしょうか？ それぞれの宗教 学級全て整っていますでしょうか？ 高学年の子達も急な環境変化で新一年生を連れていきなり長距離になるこの登下校を安全に出来ると思いますでしょうか？ 親のサポートなしで市からちゃんと対応し学校側保護者側の負担を減らしながらも子供達の安全面確保できるのでしょうか 計画表を見ましたが書いてある事自体はそうなれたら理想な事もあると思うなとは思いましたが 安全面を確保していない環境を整えていない事前連絡がない明確な信用出来る動きがない時点で信用がありません なのでやりはじめてからではいくらでも言い訳をして遅らせることができますと思いますので住人の声を必ず聞いて強行突破しようとししないで頂きたいです 子供の環境場所これ以上の保護者への負担やめていただきたいと思います なんとしても今の状況的に反対です 何のために学校の近くに家を購入して引っ越してきたのかもわかりません 学校がなければ私は西栗原には住んでいなかったと思います もし全ての対象住人からのアンケートで半分以上が賛成の場合はそうなんだ、仕方ないなと納得できると思います それは地域の人たちの声なので受け止めますが勝手に進める人たちがちゃんとやることをやらないで勝手に進めることだけは許せません 学校再編計画 断固として反対です	本計画策定においては、骨子案、素案、原案と段階を踏んで策定していく予定です。各案ができた段階で速やかに公表し、住民説明会、パブリックコメント、関係団体等との意見交換を経て、その意見等を次の案へ可能な限りフィードバックすることで住民意見を反映し、合意形成を図っていきます。 学校再編に当たっては、多くの団体や関係者が関与することから、全員が賛同できる内容になることは現実的に難しいと考えますが、大前提として、なるべく多くの人々が納得できるような、計画策定に努めます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
11	7	やっぱり納得いきません 元々学校から近い場所を選んで家を購入し住んでいて やっとここ最近安心できるようになってきたところ こんな案件をだされて本当に困っています。 この話を聞いてからいやでいやで、子供達に申し訳なくて可哀想で 申し訳ない気持ちで押しつぶされそうになります 私みたいな方は少ないとは思いますが少なからず私みたいな人が一定数いる事をわかってください。 こうなるくらいなら座間にここの区画に引っ越して来なければよかったです。 座間から出たい気持ちでいっぱいです。もっと環境を変えないやり方はなかったのでしょうか 私の子育て計画が学校廃校という選択をされているせいで本当に全部崩れました 人生ごと崩れたといっても過言じゃありません 校庭いっぱいになるくらい運動会も開催できますし 中原地区には新しい家がたくさん建ちそこに住んでる方たちは小さいお子さんがいる家庭が多く目につきます 近くには立野台公園がメインであり西原公園そして中原小学校と学校が近いことがメリットの地区なんです ずっと昔からあるこの環境をこんなに大幅に変えていいものだとは思いません 大金を持った人間がその生活基準以下に戻せと言われても難しいことのように 今現在徒歩5～10分圏内で道路の横断もなく行ける環境がある学校生活を送っているのに いきなりこの提案が通ったら来年から立小ね！歩いて20～30くらいね！って納得いくわけですね 廃校は反対ですよろしくお願いします	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、学校再編計画は、令和8年度末の策定を見込んでおり、令和9年度からその実現に向け取り組む予定のため、直ちに学校再編を実施するものではありません。特に、学校の統廃合や移転については、各種準備や協議等を数年間に渡り実施することから、現在、在学中の児童生徒に影響を及ぼすことはありません。
12	7	座間市教育委員会が令和8年6月1日に公表した「座間市学校再編計画素案（暫定版）」において、中原小学校を廃止対象とする方針が示されたことに対し、地域住民および当事者の立場から断固として反対いたします。子どもたちの安全、地域コミュニティの維持、そして座間市の持続可能な未来の観点から、本計画の速やかな見直し、および中原小学校の存続を強く求めます。 以下に、廃校方針に反対する具体的な2つの重大な懸念を表明します。 1. 通学路の安全性喪失と子どもたちの命のリスク 中原小学校が廃止され、近隣校（立野台小学校等）へ統合された場合、児童の通学距離が大幅に伸びるだけでなく、交通量が極めて多い主要幹線道路（交通の激しい交差点など）を横断・通行せざるを得なくなります。低学年の児童にとって、毎日の通学自体が重大な交通事故のリスクに晒されることとなります。「効率化」を優先するあまり、子どもたちの命の安全を危険に晒す統廃合プランは到底受け入れられません。通学路の安全確保に対する具体的かつ抜本的な解決策がない状態での廃校決定は断じて避けるべきです。 2. 子育て世代の流出と地域衰退の加速（悪循環） 市は少子化（年少人口の減少）を廃校の理由に挙げていますが、学校をなくすことは子育て世代がその地域を忌避し、さらなる少子高齢化と過疎化を加速させる「最大の引き金」となります。中原小学校はこれまで、地域の自治会活動や祭り、見守り活動の中心として、世代を超えたコミュニティの結節点となってきました。学校を廃止することは、座間市が掲げる「未来を見据えた持続可能な地域づくり」に完全に逆行するものであり、地域の活力を根底から奪う結果を招きます。 結論：少子化や校舎の老朽化という課題は理解いたしますが、その解決策が「地域から学校を奪うこと」であってはなりません。一律の統廃合ではなく、校舎の長寿命化改修や、小規模校ならではのきめ細やかな教育の質の向上（ざま魅力ある学校づくりの本質）を模索すべきです。よって、現行の素案（暫定版）における中原小学校の廃止方針には強く反対し、計画の撤回、ならびに地域住民の声を反映したゼロベースでの再検討を強く要望いたします。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、No.4での回答のとおり、通学に関するシミュレーションや検討を行っており、一定の安全性を確保できるものと考えています。 また、学校を廃止することにより、これまで育まれてきた地域と学校のつながりが薄れることのないよう、コミュニティ・スクールの仕組みを活用するなどしていきます。そのために出来る限り、地区と通学区域の整合が取れるような学校再編を推進していきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
13	7	子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）は、18歳未満のすべての子どもを対象に、人間としての尊厳と基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。世界196か国・地域が締約しており、日本では1994年に批准されました。 条約の全文は54条で構成され、以下の「4つの原則」を核としています。 子どもの権利の4つの柱生きる権利すべての子どもの命が守られ、適切な医療や栄養を与えられ、成長できること。 育つ権利教育を受けることはもちろん、休んだり遊んだりし、心も体も健やかに育つこと。 守られる権利暴力や虐待、搾取、薬物や有害な労働など、あらゆる危険や有害な環境から守られること。 参加する権利自由に意見を表明したり、団体を結成したり、自分に関することについて情報を得たり参加したりできること。 重要な3つの基本方針（一般原則）差別の禁止：人種、性別、言語、宗教、障害、経済状況など、いかなる理由でも子どもは差別されません。 子どもの最善の利益：子どもにとって何が一番良いことかを常に第一に考えて行動します。 子どもの意見の尊重：子どもは自分に影響を与える事柄について自由に意見を言う権利があり、年齢や発達に応じて大人はその意見を考慮します。 この計画に携わる方々達がもう育児が終わり見守る側の方たちが多いのならこそ理想ではなく現場の声日々の声を聞いて頂きたい。 なぜ私たちは国や市が相手になる時 静かに勝手に公表しない訳ではないけども公にもならず 静かに決定していこうとすることが多いのでしょうか本当に近年ずっとこういう国の動きや市への不安不満が募ります まだまだ知らない人も多いので選挙並みに公表声かけして下さい もう既に公表から4日たっていますがさっき旭小に通っている小松原付近の直近の声を聞いたところ ただでさえ遠いのにそこから学校だけを見たら距離がそんな事なくてもやはり歩く距離が少しでも伸びるなんて小学生の歩く距離じゃないと思っているみたい です 私も今日立野台小学校の知り合いに、中原なくなるって聞かれるんだけどどうなの？と言われてそんなのこっちが聞きたいと思いましたよ 私たちはいつも通り過ごしたいだけです やはり断固として反対します 私は3人目の子の代までももちろんですが 中原小学校地区に子供たちがいる限り中原小学校の廃校を反対します	本年2月～3月の間、児童生徒に向けて学校再編に関するアンケートを行い、意見を聞きました。 本素案の暫定版においても、通学路の検証結果を踏まえると共に、再編に伴う児童生徒への配慮・対策等を掲げたところです。 なお、アンケート結果については、資料集の一部として、計画本編に付属する予定です。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
14	7	私は、西栗原地域に関わる住民として、学校再編計画による廃校に反対します。 西栗原の学校は、子どもたちの学びの場であるだけでなく、地域住民が集い交流する拠点として長年重要な役割を果たしてきました。 学校がなくなること、地域のつながりが希薄になり、子育て世代が地域に住み続ける魅力も低下することを懸念しています。 また、統合によって通学距離が延びる児童が増えれば、交通事故や不審者被害のリスク、夏季の猛暑時における熱中症リスクなども高まります。 子どもたちの安全を第一に考えるべきです。 さらに、西栗原地域において学校は災害時の避難所としても重要な存在です。地域から学校がなくなことは、防災力の低下にもつながります。 児童数減少への対応が必要であることは理解しています。 しかし、小規模校ならではのきめ細かな教育や地域との密接な連携といった価値もあります。 廃校ありきで進めるのではなく、学校施設の有効活用や特色ある教育の推進など、存続を前提とした代替案を十分に検討していただくよう求めます。 将来を担う子どもたちと地域社会のために、西栗原地域の学校の廃校計画を見直していただくことを強く要望します。 「一度失われた学校は二度と元には戻りません。地域の未来に大きな影響を与える重大な決定である以上、拙速な廃校は避け、市民との十分な対話を重ねるべきです。」	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、通学距離については、意見No. 4の回答をご覧ください。 また、防災拠点についてですが、発生確率が高いとされる「都心南部直下地震」の想定避難者数2,220人※に対し、体育館等の指定避難所の収容可能人数は7,006人（廃止予定の3校を除く）※のため、必要な防災機能は確保されているものと考えます。 ただし、地域によって、避難所までの距離が遠くなることから、市では自宅や地域の集会所等で生活を継続していただくための取組を進めているところです。 ※座間市地域防災計画（資料編）より。
15	7	学校再編は保護者だけでなく通学路や防災面など地域全体に影響するため、学校関係者へのアンケートに加えて、市内在住者にも意見を聞く仕組みを設けていただきたいと思います。 具体的には、保護者アンケートと並行して、地域住民への郵送または説明会・意見募集を実施することは可能でしょうか。 また、集めた意見をどの段階でどのように反映するのも教えてください。 もし、アンケートを取った場合アンケート結果の公開を求めます そして集計方法 採否理由の開示もよろしくお願いします	市民の皆さんに広く意見を聞くため、座間市市民参加推進条例に則り、本パブリックコメントや地域ごとに住民説明会を実施しております。 いただいた意見等の中で、反映したものがあつた際は、それがわかるような形でお伝えしたいと思います。
16	7	迅速な対応ありがとうございました 今すぐではなくてもいずれはということなのは変わらないので何年も何十年もかけてゆっくり地元の方の気持ちに寄り添いながら耳を傾けながら現地の声を聞いて動いてくれる座間市だと期待して過ごしていきたいと思います。 あとは具体的にもし来年から取り組むとしたら何をどういう風に取り組んでいくのかを表記してもらえると助かります 基本的に土日祝日習い事があり下の子たちもいるので全部をやりながら動くのは難しい方も私以外にもいると思います なので各説明会実施の日YouTubeを通してコメント欄を開設し説明会を行うともっと幅広く色々な方が参加できると思いますので検討お願い致します。 令和ですし今の伝達事項がLINEになったみたこう説明会などもリアルタイムで配信できるように後で見れるよう残すこともできる世の中でするので有効活用していきましょう 引き続き慎重によろしくお願い致します	具体的な再編スケジュールについては、本年12月に作成予定の原案でお示しする予定です。 また、説明会運営に関するご意見については、今後の参考にさせていただきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
17	7	学校再編計画について在学中の子供達その親御さん卒業生からは廃校にならないで欲しいというコメントがやっぱり多く見られます 説明会に行けない方も多くいると思いますのでYouTubeやインスタなど気軽に携帯で確認できる方法でライブ配信の検討をお願いします 小学生の許容範囲内の登校距離、中学生の許容範囲内の登校距離は目安で文部科学省が決めた事 数字だけで見るのは簡単ですね、自分がそうする訳ではないなら、尚更簡単なことですね 大人でも下手したらバスやタクシー自転車を使う距離を子供達には歩かせてもこれは許容範囲内なので国が決めてるから許容範囲内なので昔はもっと歩いていたなど全て子供達には関係なくこれは全て大人の都合になります 子供達のことを考え動いていく必要があります 子供は体力があるからなどはもう今の時代にはあわないです どうしても夏場は熱中症のリスクも高まりますし低学年に関しては距離が長ければ長いかなりの身体的負担になります 私の学区ではそもそも安全確保の為、登校班で集まる位置も重ならないよう出来る限り違う場所になっているプラス人数も二桁にならないようにしているみたいで（安全の為）列が長いと結局リスクが高まります。なのでこれが本当に廃校となり登校班でこの距離を歩くとすると安全に登校するにはかなり難しくなってくるのが現実だと思います それぞれ学校がある位置周辺は子供がいる家庭が多いです 再編計画はまだ決定ではないといいつつ 廃校時期をいつにするかなど、もう決定的な書き方言い方、報道の仕方なのでもう少しやり方を変えていただかなければ 誤解どころか反対運動の対象になりかねません 地域の声に耳を傾けていただけますよう、宜しくお願いします 廃校を進めていくのには人数が多い時ではなく人数が本当に少なくなってから実行するのがいいと思います 多い状況でやろうとすることではないと思います よろしくお願いします	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、文部科学省が示している、小中学校の適正配置は小学校おおむね4 km、中学校おおむね6 kmとされており、本市では、現在の市内児童生徒の最長通学距離に合わせて、小学校2.2 km、中学校2.5 kmを望ましい学校配置とし、文部科学省が示す距離より短くしています。 また、児童生徒数については、20年後までの将来推計により、その減少が明らかとなっていることに加え、再編には相当の時間を要することから、現在から学校再編を具体的に検討する必要があるものと捉えています。
18	7	学校再編計画について内容次第では反対します 何回も意見を送らせてもらっていますが今日が締め切り最終日になりますので最後に締めで送らせて頂きます。 この間こどもたちと公園に行った際、うちの長男は小学生なので周りの小さいお子様のお母さんたちから小学校なくなる噂は本当ですか？とまた聞かれました 聞かれたご家庭もうちと同じく公園が近くにあり学校も近いことから昨年自宅を購入されたみたいです。 やはりみんな子供を思い色々考えてやってきてますのでどうか是非、早くても十年後を目安に廃止 廃校にすることをお願いできないでしょうか。 今はまだ生徒も全然いますしここ数年での廃校になりますとどこかしらではマンモス校になりかねないと思っています 児童の安全第一で行くためにはマンモス校よりも人数が多くない児童数で振り分けるのが間違いないと思っています。 今引越しをしてきた方たちを含めしても10～20年後に廃止廃校にさせていただきこれを公に公表し これから自宅購入を考えてる方達の為にも対象地域不動産からも購入者にお子さんがいる場合など積極的にこの話をお伝えした上で商売してもらえると本当に親切だと思います。 ある程度10～20年も説明をし続けてもらい周りの人への配慮をして頂いてからの廃止廃校 再編計画については少なからず100悪い話ではないと思っていますので、良心的な対応どうぞよろしくお願いします。 うちは3人子供がいますが3人とも同じ産婦人科同じ幼稚園なので是非同じ小学校卒業を叶えてもらえるようお願いいたします。 あとは廃止廃校になった方々が学校を選択できるようにしてください。よろしくお願いします どのお母さんとお話ししてもみなさん不満を抱き不安を抱いてます 少子化だからこそ！！親 子供によりそう街づくりをお願いしますね 座間市が市民を裏切らない市であることを信じています。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、詳細な再編スケジュールについては本年12月に作成予定の原案でお示しする予定です。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
19	8	<1 概要> 本計画は、「ざま魅力ある学校づくり方針」に基づき、「ざま未来プラン」「第3期座間市教育大綱」「公共施設再整備計画」等との整合を図りながら策定されていると説明されています。 しかし、素案を見ると、学校の統廃止が最適であるとした理由や、他の選択肢を十分検討したうえで結論に至ったという根拠を確認することができませんでした。 <2 人口政策への影響について> たとえば座間市人口ビジョンでは、子育て世代の定住転入を促進することにより、人口減少を緩和し、持続可能なまちを目指すことが掲げられています。 一方、この計画は児童数減少を前提として学校施設を再編する内容となっています。人口減少への対応策としては理解しますが、「人口減少を緩和する政策」とどのように整合しているのかが十分に示されていません。 人口推計は「何もしなかった場合」の将来像であり、市が目指す将来像とは違うのではないのでしょうか。座間市と競合する近隣自治体では、人口戦略として子育て支援に取り組み、実際に児童数や納税者人口が増加している自治体もあります。 そのような状況の中で、学校を統廃合することを前提とするのではなく、子育て世代を呼び込む政策を行い、人口減少を緩和するなど人口戦略を考えた案などの比較や検証が必要ではないのでしょうか。 本計画が長期的に座間市の持続可能性を高める政策であると判断した根拠を、より具体的に示すべきと考えます。 <3. 学校再編の評価基準について> この計画では、学校規模、すなわち学級数を中心に評価が行われています。しかし、教育の質に大きく影響するのは学校全体の学級数だけではなく、1学級当たりの児童数や、一人ひとりへの支援体制です。児童数が減少することは、よりきめ細かな教育を実現する機会でもあります。 たとえば教育を将来への投資と位置付け、教員数増やICTによる省力化、業務外部化、外部人材活用などの選択肢も座間市の政策判断で変えることができる事項です。 学校を統廃合することと、教育投資を行うことのどちらが、市の魅力向上や人口構成の改善、将来の税収基盤の強化、地域の持続可能性に資するのかについて、素案や上位計画との整合もふくめこの素案からは読み取れません。 <4. 中原小学校について> この素案では、中原小学校、ひばりが丘小学校及び南中学校などが再編対象となっています。 その中でも、中原小学校は20年後も通常学級12学級を維持する推計となっており、学校として教育機能を維持できる規模です。国の学校規模に関する考え方から大きく逸脱する状況でもないのに、廃校を選択する案とした理由について、総合的に検討した結果であることが十分に示されているとは言えません。 中原小学校については、長寿命化改修、学校機能の高度化、他施設との複合化などの存続案も含めて比較検討し、なぜ廃校が最適な政策であると判断したのか、その根拠を具体的に示すべきと考えます。 <5. 結論> 以上のように、中原小学校のような施設については廃止を前提とするのではなく、存続案も含めた複数の案を検討したうえで同一の評価基準で比較検討し、その結果を踏まえてから廃止の是非について改めて判断することを求めます。 また、この素案の中にあるような学校規模のみを中心とした評価ではなく、教育や人口戦略・施設マネジメント・地域マネジメント・都市経営といった多面的・複合的・総合的な視点から計画全体を再検証し、その過程と結果を示すべきと考えます。 学校統廃合は長期にわたって老若男女あらゆる市民へ大きな影響を及ぼすものと考えます。この計画と決定については、私たちの世代において可能な限り検討を尽くし、検討過程を残し、公開も可能な状態として将来に引き継ぐことが重要と考えます。 座間市として考え得る最も合理的で持続可能な判断となるよう、都市経営の専門家の知見も取り入れた計画の見直しを要望いたします。	本計画素案（暫定版）は、教育委員会以外にも、政策、財政、公共施設マネジメント、地域コミュニティ、都市計画といった担当などから構成される検討組織により、分野横断的に複数の案について協議してきました。加えて、教育心理学を専門とする学識経験者のアドバイスもいただきながら、1年間に渡り慎重に検討を重ねて作成しました。 また、本計画のもととなる「ざま魅力ある学校づくり方針（R6.3）」についても、保護者、学校、地域、学識経験者で構成する検討委員会で、2年間に渡り協議、検討したほか、児童生徒の保護者、教職員等を対象としたアンケート結果などを参考に策定しています。 引き続き、多角的・総合的な視点を持ちながら、計画策定に努めていきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
20	9	小松原2丁目に在住の〇〇と申します。 座間東中の1年生の子どもを持つ親です。 この再編案を見ると相模中に通う事になりますが、うちの住まいはひばりヶ丘5丁目と細い道を隔ててすぐの所にあるので、距離も東中に近く、相模中になるとかなり遠くなります。 自転車通学というような内容も見受けられましたが、雨の日はどうでしょう？今までの距離と比較して自転車で行く距離を歩くのはかなり苦になると思います。 現在、ずっと旭小地区で慣れ親しみ、東中で他の学校からの新しい友だちができてとても楽しく学校生活を送っています。それが、来年度の中学2年生から代わり、高校受験の内申点にも影響する学年であるのでいろいろな面でかなり親子共々不安要素が大きいです。 制服やジャージなどはそのままでの事ですが、子どもにとって学区編成で移動となってその中学校とは違うジャージなどは疎外感があると思います。 それと部活も新しくユニフォームを注文したばかりなのですが、もしも新たに部活に入るとなるとまた購入になるのですかね？ 子どもに話したところ、とてもショックを受けています。 そして、今高校1年生の兄がいますが、兄も旭小、東中出身でとても充実した学校生活を送る事ができました。 学区の編成、そして編成時期を考え直していただきたいです。	具体的な再編スケジュールについては、本年12月に作成予定の原案でお示しする予定ですが、再編には調整や協議等に数年間を要することから、直ちに学校再編を実施するものではありません。特に、学校の統廃合や移転については、各種準備や協議等を数年間に渡り実施することから、現在、在学中の児童生徒に影響を及ぼすことはありません。 なお、学用品の継続利用等についても、計画策定後の調整や協議でどうするかを決めていくものと想定しています。
21	10	まず中央エリアについての意見です。 再編計画素案には、栗原小学校の全児童の6割弱の居住地が国道246号線以南と書かれてありました。それでは、その児童たちが栗原中学校や東中学校へ登校するということになると通学距離が1.8～2.4kmとなります。通学に30分近くかかり、また栗原中学校方面は登り坂となります。 再編計画全体では自転車での通学も検討されているようですが、自転車は安全面で配慮が必要かと思います。そこでバス通学も検討に入れていただきたいです。栗原中学校方面は神奈中バス「下栗原」から「上栗原」利用だと通学の負担が減らせるかと思います。 近年の夏の暑さや雨の降り方から、児童の通学の負担を考慮していただきたいです。国の基準では中学生は2km以内は徒歩となっているようですが、町田市では1.8km以上はバス利用可と基準を設けている市町村もあるそうです。 また再編計画について、個々人により受け止め方は違うと思います。市民に選択肢を残すような計画を作成していただきたいです。例えば、通学先の選択の自由度を高めたり、通学手段についても各家庭の判断に任せたり、市が定めた規定やルールに一律に従うことになるような計画ではなく、個人（家庭）の判断に任せる部分を残していただきたいです。 そして今回の再編計画や市民への説明会について、学校や保育所を通して周知はありませんでした。テレビで報道がされてからSNS等で断片のみ拡散され教育委員会職員皆様の意図がうまく市民へ伝わらなかったのではと受け止めています。多くの市民が自分ごととして受け止め、計画素案がより充実した原案となるよう、いま一度市民への広報・周知の方法について検討をお願いします。	通学方法をはじめとした再編計画で影響を受ける内容については、ある程度の柔軟性を持たせて、選択ができる余幅を持たせたいと考えています。 広報・周知の方法については、意図や内容がしっかりと伝わるように対策に努めていきます。
22	11	中央区域に在住している、未就学児の母です。 子供が現中原小学校に通っている途中で新栗原小学校に転校し、栗原中学校に通うようになると思われます。 計画案を拝見し、新校は近代的で子供たちののびのびと学校生活が送れそうだなと感じ、魅力的に感じました。 現中原→新栗原になる時は、子供たちもワクワクする事と思います。ですが、中学校に進学する時は古い校舎で3年間過ごす事になり、子供たちの気持ちを考えるとモチベーションが下がってしまうのではないかと心配しております。 勿論、1番に解決すべき事は老朽化で、予算の関係や対策をしていく順番等様々な事があるのは承知していますが、栗原中学校も何か手を加えて頂き、進学するのが楽しみになるような魅力的で新しい何かを作って頂きたいと思っています。 また、地域によっては新校に関わりを持たず小中学校生活を過ごす子供も出てくると思います。『自分には関係ない』『自分は新しい学校を見れない』と子供たちが感じてしまうのも残念な事ですので、やはり新校舎にならない他の学校にも、何か新しく魅力的な何かを作って頂きたいと思っています。	ご意見のとおり、すべての学校の整備を同時に進めていくことは困難なため、優先度を慎重に検討しながら整備に取り組み、魅力ある学校づくりを進めてまいります。
23		市役所で開催された説明会に参加させて頂いた、中央区域在住の未就学児の母です。 当日も意見を述べさせて頂きましたが、共働きで子供2人を小学校に通わせる予定なので、学校統合により学童の枠が狭くなり、預けられなくなる事を心配しております。 現在の学童の状況を全く把握していないので恐縮なのですが、会場にいらっしゃった方に『預けられるのは母子家庭で、なおかつ小学校2年生くらいまでという厳しい状況』と伺いました。 時短で働いても夕方から夜の帰宅になる事が想定され、時短勤務が明けたあとはもっと帰宅が遅くなるので、子供たちの放課後の過ごし方や安全がとても心配です。 学童でなくとも、子供たちを預ける事ができる施設や習い事のようなものを各地に作って頂きたいです。ぜひご検討をお願いいたします。	ご意見として受け止めさせていただきます。 放課後のこどもの居場所について、担当部署と共有し、調整しながら進めていきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
24	12	現中原小学区の入谷東4丁目の学区を入谷小に編成する件について。 入谷小までは急な坂が多く、児童がより安全に通学するために立野台小学区への編成を希望します。よろしくお願いいたします。	再編後の通学区域に関するご意見として受け止めさせていただきます。 なお、通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討していますが、通学区域の選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。
25	13	中原小学校が近いので居住しているが、突然廃止するとなっては困る。 再編案の中央エリアでは中原小学校の近辺には他の小学校がなく、中央エリアの南の児童は遠い通学を強いられる。 小学校を減らして通学が不便となると、課題としている人口減に拍車をかけるのではないだろうか。 どうしても再編が必要なら、1キロ内に複数の小学校がある場所で、再編を検討するべきだ。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、本計画を策定する際の基本方針となる、「ざま魅力ある学校づくり方針（R6.3）」において、許容される具体的な通学距離を示しており、小学校については、2. 2 km 以内としています。 これらの距離については、現在の通学距離の中で最も長い距離を基準としており、今回お示しする学校再編案につきましても、この基準以内に収まるよう通学区域を検討したところです。 なお、再編には調整や協議等に数年間を要することから、直ちに学校再編を実施するものではありません。
26	14	自転車通学について、急な坂が多く歩道も狭い中、安全面に不安があります 再編を機会に、ひとクラス30人学級を望みます 支援級の環境に適応が苦手な子どもたちにも、学校が変わることの不安がないことを望みます 小学校の自校給食の継続、中学はできる限り、自校給食の提供を望みます。 児童ホームの定員数を増やしてください。きぼうする6年生まで通えるように願ってます。休憩スペースも取り入れて欲しい。 栗小跡地に栗原中、移転を望みます。	学校再編全般及び児童ホームに関するご意見として受け止めさせていただきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
27	15	何を考えてそーゆうふうになったのかわからない 他の小学校に行くのに子供たちが通学するのとか危険すぎる遠い子とかどうするんですか？ 他の学校に行くってなっても人数的にもオーバーだと思う 立小なんてただでさえ小学校内の学童狭すぎて子供達かわいそうなのに。 学童の先生たちだって年配の方が多いから見きれないでしょこれ以上。 なんにせよ事件事故のリスクが上がるだけ大反対	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、本計画素案（暫定版）は、教育委員会以外にも、政策、財政、公共施設マネジメント、地域コミュニティ、都市計画といった担当などから構成される検討組織により、分野横断的に複数の案について協議してきました。加えて、心理学を専門とする学識経験者からアドバイスをいただきながら、1年間に渡り慎重に検討を重ねて作成しました。 また、本計画のもととなる「ざま魅力ある学校づくり方針（R6.3）」についても、保護者、学校、地域、学識経験者で構成する検討委員会で、2年間に渡り協議、検討したほか、児童生徒の保護者、教職員等を対象としたアンケート結果などを参考に策定しています。
28	16	入谷東4丁目地区を立野台小学校の学区へ変更してほしいです。	再編後の通学区域に関するご意見として受け止めさせていただきます。 なお、通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討していますが、通学区域の選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。
29	17	中原小付近に住んでいる小学生たちが、立野台小学校や栗原小学校に通学するには遠すぎると思います。 特に一年生などは通学途中で車通りの多い所を通るには、さまざまな機嫌が伴いますし、行きは登校班などで安全を保てるにしても、帰りは時間割などの面でも高学年と一緒に帰ってくるなどは厳しいと思うので、長距離の通学は現実的ではないと感じます。 特に中原付近は人通りも多いわけでもないですし、少子化だからこその帰りが方面的に一人で帰宅の子も増えるかもしれないため、治安面も含め、帰宅などに時間がかかるのは防犯面でも怖いのです。 また今の温暖化の時代に長距離の通学は適してないと思われます。夏は外での少しの運動もきつくなっているのに、小学校低学年は毎日30分以上歩く子も出てくると思うので、その面の考慮も考えていただきたいです。	意見No.4の回答をご覧ください。 また、夏場の熱中症対策等については、学校再編に関わらず、検討を進めていきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
30	17	前回の意見に付け加えて、少子化対策で小学校や中学校を減らすということは、より座間で子育てしたいという方は減ると思われます。少なからず親として、小学校付近に家を持ちたいという方は多いと思うので、わざわざ小学校が徒歩30分などの所に引っ越してきたいという方は少ないと思います。 せっかく自然が多い街で子供には良い環境なのに、そもそもの子供が暮らしにくい街にして大丈夫なのでしょうか？この計画を見て子育て世代が座間で子育てしたい、引っ越してきたいと思う方は減少すると思います。小学校の立て直しなどが大変なのわかりますが、その前に『座間が子育てに向いてる街』と思える対策をもっと出していただき、子供が多い街になってほしいなと思います。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、児童生徒数については、時間の経過と共に減少していくことが避けられないものと認識しており、さらに減少が表面化した時点では、検討できる選択肢も限られる可能性もあります。 子育て支援や魅力ある街づくりについては、学校のみならず、市全体で取り組む必要がありますが、良質かつ持続可能な学習環境を次世代に継承するためには、学校再編の取り組みが不可欠と捉えています。
31	18	中原小、南中に廃校予定について再考をお願いしたい。 小学校、中学校は徒歩通学であるが、今までこれらの学区の住居の子供達が新たな学校に通学することになった場合、私の居住地から立野台小、栗原中にそれぞれ徒歩30分かかることになり、負荷が非常に大きく、子供の安全性確保の問題もある。 各地域からの徒歩時間の検討が全くなされていないので示して欲しい。 また、学校を廃校にする場合としない場合に要する予算の比較データも開示されておらず、市民に開示して欲しい。 予算の限界が統廃合の最大の理由と書かれているが、具体的な比較検討のデータを開示すべきと思う。 また、その予算の差額が市全体の予算のどれぐらいの割合を占めるのか？国からの補助金も見込めないのか？情報の開示がないと、市民として判断が難しいのでよろしくお願いします。	通学距離、時間については、意見No.4の回答をご覧ください。なお、個別の地域からの距離や時間について、本計画素案（暫定版）の作成過程において、検討をしておりますが、詳細まではお示ししていないため、その記載について検討してまいります。 また、予算等のコストに関しては、今後作成する原案でお示しする予定です。
32	19	座間西中のお弁当が本当にまずいようで、小学校の時に給食を絶対残さなかった娘が、我慢して食べようと思ったけど食べれなかったと言って帰ってくることが多々です。 近隣の中学校は全て給食だと聞いています。相模原市の中学も来年だかには給食だそうです。 かなり前から中学での給食の意見は出ていると思うのですが、本当に動いてるのでしょうか？早く給食にしてください。 娘が中学にいる間はもう叶わないでしょうから、せめて美味しいお弁当を出している会社に変えてほしいです。	教育委員会では、令和8年1月に「座間市立中学校給食全員喫食実施方針」を策定し、給食センター方式を本市における中学校給食全員喫食の実施に最も適している方式として採用しました。 給食センターの整備に向けて、全庁的な調整を進めているところです。 いただいた御意見は、今後の事業検討の参考とさせていただきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
33	20	入谷東地区が、入谷小になると聞きました。坂もかなりあり、小学生の足では毎日の登下校が、とても大変になると思います。距離も遠いし、できれば立野台小の学区に入れてほしいです。もし出来なければ入谷小学区で決まった場合も指定校変更をし、立野台小に変更ができるようにしてほしいです。 中原小は、3クラスちゃんとありますが、無くならないといけないんでしょうか？残すことはできませんか？兄弟で一緒に通うことをたのしみにしてた下の子達みんな悲しい気持ちになっています。急に中原小がなくなり、兄弟で通えた子たちがちゃんと兄弟で通えるまでの間10年後とかに廃校とかにしてもらいたいです。	ご意見として受け止めさせていただきます。 通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討していますが、通学区域の選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。 なお、中原小学校については、将来的に望ましい学校規模を下回る見込みです。（R17には全学年2学級となる見込み） 再編には調整や協議等に数年間を要することから、直ちに学校再編を実施するものではありません。特に、学校の統廃合や移転については、各種準備や協議等を数年間に渡り実施することから、現在、在学中の児童生徒に影響を及ぼすことはありません。
34	21	現在の案では、中原小学校が廃校となり学区の再編成が行われます。中原小学区の子の大半は、栗原小学校と、立野台小学校への変更となるのですが… 入谷東4丁目の地区だけ「入谷小学校」の学区にされてしまう件で入谷地区の子供たちだけが急坂も多く、距離も遠い小学校になってしまうのを、何とか再検討してほしいなと思います。 また、中原小に入学した子達は同じ学年全員揃って中原小を卒業したいので、小学生の間に廃校の子は入学停止にするようにして、途中で学校が変わらないようにしてほしいです。	ご意見として受け止めさせていただきます。 通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討していますが、通学区域の選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。 また、再編に際して入学制限を設けることについては、意見No.7の回答をご覧ください。
35	22	小松原2丁目のみを東部エリアから、北部エリアに組み入れる理由として、地域の整合を上げている点が疑問。 地域説明会で市長が夫は小松原2丁目から相模野小に通っており、地域のあり方が昔に戻るニュアンスの話を再三されていたが、それは何十年も前の話であって、旭小ができてからは、小松原2丁目も東部エリアの地域として40年以上、今の地域のあり方で来ている。 自治会区の話もあったが、回覧板を見ても加入率は50%を切っており、自治会区と学校区が一致していないことで困る住民がどの程度いるのかも疑問。また、今の自治会区で40年以上やってこれたのであれば問題ないと思う。 単に相模野小の小規模化を防ぐために小松原2丁目だけを今の地域から切離しているとした受け取れない。 相模野小の小規模化を解消するのであれば、北部エリア内での学区割りの見直しを第一に検討すべきではないのか。 相模野小を相模中へ移転するので距離は延びないという旨の説明もあったが、結局中学進学時には通学距離が大幅に延びる。 相模野小と相模中の敷地内に小中一貫校や義務教育学校を検討してほしいが、相模が丘小の進学先を考えるとそれも難しいと思う。せめて、相模中の敷地内に小中両方を設置することも検討してほしい。 また、いずれも難しいということであれば、せめて、指定校変更を認めるか相模野小移転前から相模野小へ通え、かつ、移転までの間はスクールバスを走らせる等の検討を行ってほしい。	ご意見として受け止めさせていただきます。 本計画では、学校は地域の方々にも支えられながら運営しているため、学区は原則として地区に基づいて設定することとしています。 また、相模野小学校の移転先については、小中連携教育の推進を踏まえ、可能な限り相模中に近接する位置が望ましいと考えています。 指定校変更については、再編により影響が出る地域を対象に柔軟に対応したいと考えています。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
36	23	小中学校の統廃合へ進むのではなく、少人数制クラスへ進み、優等クラスの進学支援や低学力者への手厚い支援などの方向に向うべき 少子化だけが問題なのではなく、私学への流出している現実をもっと学校側は直視すべきと考える	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、本計画は児童生徒数の減少とともに、学校施設の老朽化も大きな課題として捉えており、魅力ある学校を未来へつないでいくためには、統廃合を含めた学校再編が必要と考えています。 少人数学級について、一定のメリットがあることは承知していますが、一方で「人間関係の固定化や多様な意見に触れる機会の減少」が生じたり「クラス数の増加により、教員の配置が難しくなる」などのデメリットも踏まえる必要があります。 なお、現在、小中学校では、1つの教室に2人の教員が付くチーム・ティーチング指導を導入しており、小学校では3、4年生を対象に、中学校では、主に1、2年生を対象に取り組んでいます。
37	24	現在小学4年生の娘が、南中学校の予定でした。 現在、海老名市と座間市の境界近くにすんでおり、南中学校が無くなってしまうと、東原中学校、栗原中学校共に徒歩40分近くかかってしまいます。 中学校では部活も始まり、帰りが遅くなることもあると思いますが、遠くなると心配です。 同じように距離が遠くなる子供も多数いると思うので、南中学校を廃校にするのは反対です。	ご意見として受け止めさせていただきます。 お住まいの地域から、栗原中学校までは2km前後おおよそ徒歩30分程度かと思われます。 本計画素案（暫定版）では、中学校の場合、通学距離が2.5km以内に収まるよう再編案を検討していますが、一部の地域でこの距離を超える見込みであることから、自転車通学の導入を検討しているところです。
38	25	中原小学校と南中の廃校は賛成です 南中は孤立していると聞いたことがある 部活なども含め生徒数が多い方が何かといいこともありそう ただもし南中が新栗原小学校になるのであれば早めに動いて欲しい 勝手に申し訳ないが何年か通って途中で移動となるよりは最初から新栗原小学校に通わせたい 栗原中は可能であれば自転車で通うことができるといいと思う	ご意見として受け止めさせていただきます。 具体的な再編スケジュールについては、本年12月に作成予定の原案でお示しする予定です。 自転車通学の導入については、前向きに検討しており、本計画策定後に設置予定の「（仮称）自転車通学導入検討委員会」の中で、導入に向けた取組を進めていく予定です。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
39	26	1. 小中学の再編計画については、概ね妥当と考える。 小学校から中学校は分割されることなく進級できること。町内会と小学校は分割されることなく通学できることを願うため。 2. 通学路については、指導員を立てるなどの対策が記載されているが、次の対策についても検討願う。 (1)通学路の歩道整備。狭隘な道路が多いので、現状でも危険な場所がある。歩道の整備も並行して行うこと。 (2)歩道橋の老朽化とくに腐食が著しく、利用者はもちろん防災上も大きな障害となりかねないため、歩道橋の架け替え、又は撤去して歩車分離、スクランブル交差点化を行うこと。 (3)通学路に街路灯が少なく夕方、夜間は暗く危険なため、すべての通学路に街路灯を整備すること。 3. 通学方法について、中学生に自転車通学を認める検討があるが、座間市内は自転車利用が危険な道路であるため、通学バスを走らせることも検討願う。 4. 校舎の建替えが計画されているが、老朽化による生活環境の悪化があることから、できる限り早急に、計画的に進めることを願う。 5. 廃校となる校舎の利用については、文化財の展示や地域活動での利用と共に防災拠点としての活用も検討願う。	通学路、老朽化対策、跡地利用についてのご意見として受け止めさせていただきます。
40	27	小学校、中学校の統合校に、作って欲しい、中学校の全員さん、給食を、	ご意見として受け止めさせていただきます。
41	27	小松原地区など、選択制したら良いし、市内でも、本人が行きやすい小学校や中学校をしたら良いし、お友達が居る、小学校や中学校にするとか、	再編後の通学区域に関するご意見として受け止めさせていただきます。 なお、通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討していますが、通学区域の選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。
42	28	本日説明会に参加させていただきました。 ご説明頂いたお話の中で、栗原小学校を南中学校に移転する説明があったと思いますが、小学校にするにはグラウンドが狭すぎるのでは無いかと思い、意見させていただきました。 私自身、幼少時代から座間市で過ごし、栗原小学校/南中学校を卒業させていただきました。 社会人となり一度座間を離れましたが、自分自身が子育て世代となり、2人の子供が生まれた後に、また座間市に戻ってきました。 現在私の子供達も栗原小学校/南中学校に通っています。 本日学校の廃止を推し進めるのでは無く、子供達や子育て世代が増える施策も考える必要があるのではないかと意見もあったと思います。 私自身が考える座間市の魅力は、程よく田舎でのびのびと幼少時代を過ごす事が出来るところにあると思います。 小学生の頃、めいっばいグラウンドを走り回り、放課後にはサッカーや川遊びなどに夢中だったことを覚えています。 都心には無い大きなグラウンドで休み時間を過ごせる事、自然豊かな環境で五感を育みながら、子供達の運動能力向上をはかれるような町作りの施策を考えて頂けると嬉しいです。 南中学校ではサッカー部に入っていました、サッカーコート1面すら作る事も出来ませんでした。 そのため練習試合などは必ず遠征でした。 仮に南中学校を小学校に変更し、滑り台やブランコなどを設置した場合、子供達がめいっばい走りまわったり、運動出来るスペースの確保は出来ないと思います。 たくさん遊んで、五感を育み、運動能力も向上出来るような施策を推し進めることで他の市には無い魅力と差別化をはかれるのではないのでしょうか。 小中学校の移設や廃止自体を否定してるわけでは無いので、是非ご検討の程宜しく願いいたします。	南中学校を小学校に転用する場合は、グラウンドも含めて、学校運営に支障がないよう検討を進めていきます。 運動能力向上を図る施策については、ご意見として受け止めさせていただきます。
43	29	対象の学校を利用している、開放団体などはどうなるのが心配です。 対象の学校の小学生が多く放課後に活動しているので、近場の習い事がなくなってしまうのかなと。 他の小学校も開放団体のスケジュールは空いてないし、学校がなくなる?利用している開放団体も使えなくなるではなく、使える学校や施設を案内してくれたら助かります。 もちろん反対意見ではありません！ が、長年利用させていただいてる場所がなくなるのは寂しいです。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、廃止された後の学校の跡地利用については、計画策定後に検討していく予定です。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
44	30	入谷東4丁目地区の学区を、立野台小学校学区にして欲しい。	再編後の通学区域に関するご意見として受け止めさせていただきます。 なお、通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討していますが、通学区域の選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。
45	31	相模野小学校を移転する案について、地図を簡単に見る限り今座間市が所有している公共施設で小学校を移転するのに足る土地があると思えないが現段階で具体的な候補地がいくつか上がっているのか知りたい また相模野小学校と相模中学校を交換する案について、小学校跡地に中学校を建てるのは面積が足りず授業、部活動等に支障がでないか懸念がある この案になる場合今の中学校でできていることができなくなる等の不利益が生徒にかからないよう具体的な対策を考えてもらいたいと共に、現段階で何か検討している案があれば聞きたい	相模野小学校の移転先については、相模中学校との近接に配置することが望ましいと考えているため、近傍の用地について、公有地、民有地問わず検討を進めます。 なお、小中を交換する案の場合でも、学校運営上、支障のない面積が確保できる想定です。
46	32	市民説明会の日程がでていますが、その時間に市内保育園の保育参観と重なっています。 事前にこのような確認はされないのでしょうか。子供が2人在園中のため、両親共に行けません。または、説明会の内容が動画配信のような形でされるのでしょうか。	今回の説明会では、全エリアを対象とした回が1回、各エリアに特化した回を各エリア内で1回ずつ開催しましたが、参加できない方もいると承知していますので、市ホームページ及び市YouTube公式チャンネルに説明動画の配信を行いました。
47	33	学区再編について うちの子は、学区が変更する住所に住んでいます。 入学した中学校で卒業させてほしいです。 是非、学区が変更する可能性がある子が不安にならないように、入学し、学校が残る（廃止）にならない場合は、学区を在校生は選択性にさせてあげてください！ 思春期の子供からしたら、学校が変わるというのは人生を左右される大きな出来事です。是非、在校生に猶予を与えてください。 制服の変更の時も、猶予期間が延長されました！是非、在校生たちのために、子どもたちのために、お願いします。	兄弟、姉妹と同じ学校に通わせたい、途中での転校を避けたいなどの理由で、予め再編先の学校に通いたいという声が一定数あることを認識していますので、小学校であれば、再編する年の6年前、中学校であれば再編する年の3年前から、移行期間として、再編前後のどちらの学校にも通えるような柔軟な対応ができるよう検討しています。 いただいたご意見を参考にしながら、検討を進めてまいります。
48	34	入谷東四丁目区画が入谷小となっているが、6歳の子供に坂道2回と踏切がある道を毎日往復することが自然と捉えているのか？大人の足でも片道徒歩25分となっているが(Googleマップ)6歳の一年生が何分かけて登校する想定で、それが適正なのかどうかエビデンスがあれば教えて頂きたい。加えてそもそもなぜこの区画が入谷小となったのかの背景(正当性)を教えて頂きたい。 現時点でも近所の小学生(近隣の家族10家族ほど)とも良好な関係が築けているが今後小学校に上がる予定の子ども3人(2家族)だけ別になることで地域の繋がりに悪影響が出ることは想定しているのか教えて頂きたい。 現時点では単純に「入谷小の人数調整に我が家の子どもが犠牲になる」印象しか受けない。 立野台や栗原に申請して行く？方法があるが、その場合登校班などの対象から外れると聞いている。何か事故などあった際は、市は「市の設定から外れた申請をした保護者に責任があり市に責任はない」という認識になるのか？ 細かな質問は尽きないが、現時点では「どう検討したらウチの区画が入谷小になるのか？」全く理解できない。 立野台もしくは栗原に設定頂くよう強く求めます。	通学路、通学距離については、意見No.4の回答をご覧ください。 なお、通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討していますが、通学区域の選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。 いただいたご意見を参考に柔軟な対応が取れるよう検討をしてまいります。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
49	35	「座間市学校再編計画素案（暫定版）」に関する意見 ・中原小学校の廃止については立地が土砂警戒区域であることや老朽化している事も考えると妥当かなと思います。子どもたちは移行中に通うことになると思うのですが元々通っていた小学校が無くなり新しい小学校に通うというのはメンタル的に不安になりやすいかなと思います。クラス編成や担任の先生の配置など、どのようにされるのか具体的な配慮を知りたいです。 ・学校併設の学童はどのように変わりますか？ ・入谷東3丁目が立野台小学校ではなく入谷小学校へ通うのはなぜですか。距離や坂道を考えると立野台小学校の方が通いやすいのではないかなと思うのですが。 ・行きの登校班や帰り道も急に変わる事に対して親のフォローが必要ですよね！？行政に任せるのではなく我が子の安全に対しては親が1番に配慮したい気持ちがあります。 ですが、現実問題、いつのタイミングで変わるのかわからないと仕事の都合の付けようありません。 27日の説明会にも参加する予定です。 子ども達が健やかに楽しく小学校に通えるように前向きに考えていきたいです。よろしくお願いします。	児童生徒への配慮として想定しているのは、再編校間の事前交流、スクールカウンセラーの活用、教職員の継続配置などです。具体的な対応は再編前に設置する「（仮称）〇〇学校区魅力ある学校づくり準備委員会」で検討予定です。 通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討しています。 具体的な再編スケジュールについては、本年12月に作成予定の原案でお示しする予定です。
50	36	ニュースで今通学している旭小が対象となっていて、ショックでした。 現小学3年生ですが、今いる学校で、皆と一緒に卒業させてあげたいです。。 旭小の子達がバラバラになると思うと胸が痛みます。。 統合するなら、子供たちへの環境の変化を最小限にして、負担を軽くしてあげたいです。	児童生徒へ再編の影響が可能な限り少なくなるよう対策や配慮に努めてまいります。 なお、学校統廃合や移転については、各種準備や協議等を数年間に渡り実施することから、現在、在学中の児童生徒に影響を及ぼすことはありません。
51	37	旭小学校を無くす予定なのに なぜエレベーター新設工事を今やっているのか疑問です。 お金もったいないです、、、 そして一部が送出となると、折角できたお友達と離されてしまうのもとても悲しい。 やっと慣れてきた一年生です。 今でもこの暑さの中顔を真っ赤にして帰ってくるのに、これ以上通学時間がかかるようになると可哀想だなあとと思います。	旭小学校の廃止は第2期（R19～R28）を予定している他、ひばりが丘小の建替え時には、仮設校舎の代わりとして、2校の児童は旭小学校に通ってもらう想定です。 そのため、校舎については、今後20年近く使用することを想定していることから、エレベーターについても有効に活用できると考えています。 また、夏場の熱中症対策等については、学校再編に関わらず、検討を進めていきます。
52	38	中原小廃校するならば、入谷東4丁目地区を立野台学区にして欲しい。車通りが多く危険。急坂が多く遠い距離を通学するのはかなり負担。	通学路、通学距離については、意見No.4の回答をご覧ください。 なお、通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討していますが、通学区域の選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。 いただいたご意見を参考に柔軟な対応が取れるよう検討をしてまいります。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
53	39	ホームページみました。 編成理由よくわかりました。 その上で 入谷東4丁目の中でも現中原小学区は立野台小が良いとおもいます。 入谷小までの通学路は、坂道が多く駅構内も通ります。 結構な距離と高低差があり特に低学年にはランドセルを背負っての登下校は負担が大きすぎるように思います。 机上の話ではなく実際に歩いてみてください。 よろしくお願いします。	通学路、通学距離については意見No. 4の回答をご覧ください。 なお、通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討していますが、通学区域の選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。 いただいたご意見を参考に柔軟な対応が取れるよう検討をしまいにります。
54	40	東原小学区だが、東原小と栗原小の間は車通りが多く非常に危険なので、学区が分かれた案は非常に好印象。東原小へ向かう道も整備されているので、東中への道も整備されているのでさがみ野駅付近の人も中学に行きやすい道のりなのではないだろうか。	ご意見として受け止めさせていただきます。
55	41	子どもが昨年度、東原小学校を卒業、今年度・東中に進学しております。 私達の住む地区は、小学校は栗原小学校、中学校は栗原中学校へ進学する様に、進学前に教育委員会からお手紙がきます。 しかし、通学路や家庭の考え方により、東原小学校や東中を選ぶことができ、それを許可して頂いている地域です。 この学区内には、栗原小学校・東原小学校、そして東中・栗原中に進む子どもたちが混在しています。 これからも、今までと同様にどちらの学校を選ぶか家庭の判断で申請し、許可して頂けるとありがたいです。 これから学校に通い出す児童・生徒の安全性を第一に各家庭は考えると思います。 以上の事を、これからの計画にも引き継ぎ入れてくださる様、お願いいたします。	通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討していますが、通学区域の選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。 いただいたご意見を参考に柔軟な対応が取れるよう検討をしまいにります。
56	42	東原小学校のコミスク委員をしております。 市内の小学校の統廃合が動き出しますと、コミスクについても変化が出てくるものと思います。 近隣の市で規模の小さい小学校の上、地域の特性が豊かな地区では、コミスク活動が活発な地域もあると存じます。 学校と地域の協働に、どのような活動が学校から求められて、地域からのご提案もしくはご相談できるのかと思います。 統廃合により、コミスク委員の人数はそのままなのか？ 小学校が統合になる為、2校のコミスク委員が全て残った人数のままで会議を行うのか？ 各学校にコミスクの部屋をどのような広さで、これから設置するのか？（活用についても） 関心を持っております。 コミスク活動の実際は、実際にお手伝いに来てくださる保護者世代は共働きで参加率は少なく、現状は地域のお年寄りがコミスクを支えています。国策では若い世代のコミスク活動も推進していると思いますので（座間市も同様の流れになるでしょうか？）、それらの方々が学校にどう関わる、地域活動して下さるのか気になっているところです。 具体的な策や案はまだ持たないのですが、学校再編されより魅力的な学校、子ども達にも大人にも住み良い地域になっていく事を願います。	学校再編に伴い、統合等が行われた場合は、コミュニティスクールも再編が必要であるため、再編対象となる学校を軸とした通学区域において、学校、保護者、地域、行政で組織する「（仮称）〇〇学校区魅力ある学校づくり準備委員会」を設置する予定です。 なお、委員数や活用方法など現時点では決まっていません。スムーズに再編できるよう、協議・検討を進めていきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
57	43	中原小、南中学区に住んでいるが、どちらも廃止になる予定となるのはとても残念でならない。ましてや座間の中で新しい方の学校なのになぜ廃止とするのか。（南中は小学校として使われるかもしれないが） 元々子供の数が多くはなかったが、小学校、中学校共に運動会や文化祭など、縮小化しているのに統合により今より人数が増えたら子供達の活躍する場も減る。 また、学童保育の場所も今も足りていないと感じている。これから先も必要とする人は増えると思うが、統合することによる不安はないのか？ 校歌など、それぞれの学校特色があると思うがそれはどうなるのか。なくなってほしくない。	児童生徒数の減少や、施設の老朽化状況、学校の立地などを総合的に判断し、本計画素案（暫定版）を作成しました。 また、本計画のもととなる「ざま魅力ある学校づくり方針（R6.3）」についても、保護者、学校、地域、学識経験者で構成する検討委員会で、2年間に渡り協議、検討したほか、児童生徒の保護者、教職員等を対象としたアンケート結果などを参考に策定しており、慎重に検討を重ねてきた経過があります。 統廃合の際には、その影響ができる限り少なくなるよう対策や配慮に努めてまいります。 また、廃止となる学校の思い出の継承ができるよう努めてまいります。
58	44	東中の1年生です 今まで小学校で仲良くなった友達や今東中の友達たちとせっかく仲良くなれたのに違う中学校に移動されるのは嫌です。それに部活も楽しんで仲間と仲良くなれました。 違う中学校に移動だととても不安です、学区を考え直してください。お願いします	児童生徒へ再編の影響が可能な限り少なくなるよう対策や配慮に努めてまいります。 なお、学校統廃合や移転については、各種準備や協議等を数年間に渡り実施することから、現在、在学中の児童生徒に影響を及ぼすことはありません。
59	45	まず、来年からいきなり中学を変更するというのはおかしいです。まだ、次の1年生からというのなら少しは分かりますが、現在中学1年生の子達が上の学年に進級するというときに、他の学校へ変更という形になると、もともとその移動先の中学にいた人たちは、もう慣れているとおもいますが、その中に突如はいるとなると人間関係を作ることが難しいです。それに、その中学で部活に入っている人は、また、ユニフォームを購入するかたちにもなりますし、新しい環境になれるというのはとても難しいと思います。	学校統廃合や移転については、各種準備や協議等を数年間に渡り実施することから、現在、在学中の児童生徒に影響を及ぼすことはありません。詳細な再編スケジュールについては本年12月に作成予定の原案でお示しする予定です。 また、再編の際には、新たな経済的負担が出ないよう努めてまいります。
60	46	小松原二丁目に住んでいます。友達と離ればなれになるのは嫌です。	ご意見として受け止めさせていただきます。 児童生徒へ再編の影響が可能な限り少なくなるよう対策や配慮に努めてまいります。 なお、学校統廃合や移転については、各種準備や協議等を数年間に渡り実施することから、現在、在学中の児童生徒に影響を及ぼすことはありません。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
61	47	東中1年生です。 私の母校は座間市立旭小学校なのですが、その母校がなくなるのはとても悲しいことであり、私たちの思い出が全て消えることでもあります。シンボルなどを残したとしても、学校がなくなる時点で私たちの思い出は途絶えるんです。私はまだ中学生なので、今の状況など、大人と比べたら全く理解が出来ません。ですが、私は中学校に登校するとき、小学校の前を通るとき、いつもお世話になった先生に挨拶をして、学校にあいさつをして1日が始まるんです。勉強が嫌でも、1日頑張ろうと思えるんです。心の居場所が消えてしまうんです。そんな人は私だけではないと思います。また、その計画が実施された場合、小松原2丁目の生徒は相模野小学校へ行かないとなります。そのとき、仲が良かった友達とは離れてしまいます。全然知らない子がたくさんいて、それが原因で1人になり、不登校になってしまう子がいたらどうするんですか？今の日本は不登校の子が増える一方です。それが加速してしまうのではないですか？ 魅力ある学校づくりをするためには、新しいことをすることが良いとは思いますが、私たちが今まで創り上げてきた温かい居場所を守り続けることが最も正解に近い答えだと考えます。	ご意見として受け止めさせていただきます。 児童生徒へ再編の影響が可能な限り少なくなるよう対策や配慮に努めてまいります。 また、廃止となる学校については、シンボルだけでなく、思い出の継承もできるよう努めてまいります。
62	48	6/14説明会に参加したものです。 質疑応答の際に話が出た通り、廃校に関してはもっと慎重になるべきと感じました。 また、学区変更により、通う学校が変わる子に関しては、在学途中で学校が変わることのないよう、柔軟な対応をしてほしいです。よろしくお願いします。	本計画素案（暫定版）は、教育委員会以外にも、政策、財政、公共施設マネジメント、地域コミュニティ、都市計画といった担当などから構成される分野横断的な検討体制で、学識経験者からアドバイスをいただきながら1年間に渡り、慎重に検討を重ねて、作成しました。 また、本計画のもととなる「ざま魅力ある学校づくり方針（R6.3）」についても、保護者、学校、地域、学識経験者で構成する検討委員会で、2年間に渡り協議、検討したほか、児童生徒の保護者、教職員等を対象としたアンケート結果などを参考に策定しており、慎重に検討を重ねてきた経過があります。 なお、兄弟、姉妹と同じ学校に通わせたい、途中での転校を避けたいなどの理由で、予め再編先の学校に通いたいという声も一定数あることを認識していますので、再編する年の6年前から、移行期間として、再編前後のどちらの学校にも通えるよう検討しています。 さらに、再編により通学区域に影響が出る地域については、指定校変更許可区域に指定するなど、柔軟に対応したいと考えています。
63	49	「（仮称）魅力ある学校づくり準備委員会」のところについて【想定される検討・準備事項】に「教育目標」を入れて欲しいです。 各学校で理念として掲げられ、座間市の各学校のホームページのトップ画面にも掲載されている「教育目標」は、学校づくりで根幹を成す部分だと考えるます。学校を再編するにあたり、現在よりも豊かな環境や充実した教育を、地域とともに作りあげる仕組みを望みます。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、教育目標については、学校運営部会の中で検討されるものと想定しています。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
64	49	児童生徒数は確かに減少していますが、不登校児童生徒数、日本語指導が必要な児童生徒数（外国籍児童生徒数）、特別支援が必要な児童生徒数、通級指導が必要な児童生徒数は、いずれも増加傾向になっていると思います。これらは、学校の働き方改革の過程で、学校側への負担増大傾向と指摘されている要素です。他県の事例では、学校再編後の跡地を利用して、文部科学省が推進する学びの多様化学校あるいは日本語支援教室（プレクラス?プレスクール）、通級指導拠点などを開設するなど「①不登校支援機能の強化」「②特別支援機能の強化」「③日本語指導機能の強化」「④通級指導機能の強化」に取り組む自治体があります。 ①②③④ともに、ゼロから施設を作るよりは、学校機能を利活用することでローコストで開設できると思います。私の母校は、小学校、中学校ともに閉校となり、校舎自体も取り壊されてしまいましたが、再編となった校舎の利用できる部分を少しでも活かしていれば、そこから当時を思い出す卒業生も少なくなく、素案に掲載されている「思い出の継承」につながるはずです。そして、①②③④を推進すれば「座間市は子育てにやさしい街」と認知されるようになり、子育て世代の転入増加につながることを期待できるのではないのでしょうか。 「跡地利用」のところで「①不登校支援機能の強化」「②特別支援機能の強化」「③日本語指導機能の強化」「④通級指導機能の強化」を検討していくことを望みます。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、跡地利用の具体的な内容については、まちづくりや公共施設全体の再整備とも関わるため、再編計画の策定後、庁内横断的に検討していきます。
65	50	入谷東2丁目など立野台小学校の方が近いのにわざわざ交通量の多い道路を渡らせ少し離れた中原に通わせるのが怖い。	本計画素案（暫定版）でお示ししている再編案では、中原小学校区の入谷東2丁目については、立野台小学校区となり、通学距離が短くなる想定です。
66	51	小松原2丁目から、さがみ野小はとてもとても遠い。 小松原地区、1丁目、2丁目がわかれており、自治会が分けられていると記載ありましたが、それよりも、毎日のことである、子供の通学距離を優先に考えてほしい。 中学の自転車通学について、座間は自転車の道?が整えられているのでしょうか?あまりそうとは思いません。それでは、自転車通学は危ないと思いますし、雨の日はどうなるのでしょうか? また、各家庭から自転車を用意しなければならないのでしょうか?市で支給してくれるのでしょうか?家庭任せに、、、と感じました。 よろしくお願いします。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、小松原2丁目の再編は、相模野小学校が現在の相模中学校の近くに移転された後に行う想定です。 また、自転車通学については、一定程度、生徒及び保護者から利用を望む声もあることから、計画策定後に詳細な検討・協議を行う予定です。
67	52	中原小跡地に知的障害のある子の支援学校を作りたい。 支援級は地域の支援の必要な子が溢れ、支援学校も定員をオーバーしているし、座間から海老名まで登校しなければならない負担はある。 支援級ではサポートしきれないような障害児の数と、えびな支援学校の定員のバランスが取れていないように思う。 支援学校は県の管轄なのは存じ上げているが、座間に1校支援学校があればえびな支援学校の定員オーバーも改善されるのではないかな? 人数的には小規模の学校でいいはず。えびな支援学校の分校や分教室でもいい。 座間市の障害児の置かれている状況の難しさをぜひ見ていただいて、現場の先生方の声を聞いていただいて、中原小の跡地利用で支援学校の創設を検討していただきたい。 インクルーシブ教育は、環境が整わない限り関わる皆が苦しみます。よろしくお願いします。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、跡地利用の具体的な内容については、まちづくりや公共施設全体の再整備とも関わるため、再編計画の策定後、庁内横断的に検討していきます。
68	53	子どもたちが愛する中原小を残すという道が本当はないものなのか、今一度検討をして頂きたいです。子どもを通わせる親としては、まだ下の子もおり、大変残念です。6年生、4年生、1年生で、きょうだい3人が中原小にそろう1年間があり、そんな未来が来る日々を、末っ子が生まれる前からとても楽しみにしていました。 もし廃校が決定になった場合、入谷東4丁目の中原小学区は、安全面・距離面を考えて、入谷小ではなく、立野台小に統合して頂きたいです。 仮に入谷小に統合した場合、西中に行く児童がほとんどだと思います。分散進学の解消もしたいとありましたが、現在この地区の生徒は栗中に通っており、ここから西中に通うのはとても現実的ではないと思います。この地区においては、中原小も廃校にされ、更に分散進学も解消されず、とても納得いきません。 自転車通学になった場合も、座間駅に向かう急な坂道を上ったり下ったりしながら毎日運転することは、自転車専用通行帯もなく、悪天候の日もある中で、中学生にはとても危険すぎます。大人でも、毎回集中を要します。私自身、フードワンの前の信号で、座間高生の時に自転車通学中にひき逃げに合いました。車からは、見通しが悪い通りのように思います。また、車が横を通る中、雨に濡れた線路で自転車が滑ってこわい思いをしたこともあります。 中原小の存続と、廃校の際には入谷東4丁目の中原小学区を、立野台小、栗中への統合へ再考して頂きたいです。よろしくお願いいたします。	再編後の通学区域に関するご意見として受け止めさせていただきます。 なお、通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）や地区との整合なども踏まえ総合的に検討していますが、通学区域の選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
69	54	知的障がいを持つ小中学生は、1番近い海老名支援学校でも、1時間以上通学にかかります。座間市内に支援学校を設立して欲しいです。学校再編に伴い、支援級の数も減る事について、1学年につき支援級を増設して欲しいです。	ご意見として受け止めさせていただきます。特別支援学校の設置については、県の管轄となりますので、県の教育委員会へご相談ください。特別支援学級については、在籍人数に応じて設置されます。
70	55	学校再編計画の地図を見ると、南中学校がなくなることで、東中学校や栗原中学校へ通学する児童・生徒が増え、小学校・中学校ともに通学距離が長くなる家庭が多くなると感じました。そのため、南中学校を廃止するのではなく、小中一貫校として活用することはできないのでしょうか。既存の施設を生かしながら、子どもたちにとってより良い教育環境を整える方法も検討していただきたいです。 また、来年度から計画がスタートすると聞いていますが、具体的にいつから再編が実施されるのかが分かりません。我が子は現在幼稚園に通っており、幼稚園時代に仲の良かった友達と、別々の小学校に進学しても南中学校で再会できることを楽しみにしています。しかし、計画の内容や時期がはっきりしないため、子どもにも説明ができず困っています。子どもや保護者が安心して準備できるよう、再編のスケジュールや対象となる学年については、できるだけ早く分かりやすく公表していただきたいです。また、学校を減らすことだけでなく、子育て世帯が住みやすいまちづくりや人口を増やす取り組みにも力を入れていただきたいと思います。将来を見据えたまちづくりとあわせて、学校再編についても検討していただくことを希望します。	ご意見として受け止めさせていただきます。また、詳細な再編スケジュールについては本年12月に作成予定の原案でお示しする予定です。なお、子育て支援や魅力ある街づくりについては、学校のみならず、市全体で取り組む必要がありますが、良質かつ持続可能な学習環境を次世代に継承するためには、学校再編の取り組みが不可欠と捉えています。
71	56	【意見の要旨】 小中学校の統廃合・再編にあたり、単に学校同士を統合する（減らす）という後ろ向きな議論にとどめず、公立保育園や私立の幼稚園、あるいは放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て支援施設も同一敷地・建物内へ統合・集約した「幼保小中・学童一体型の複合施設（次世代子育て・教育拠点）」としての整備を提案します。 【提案の理由・具体的なメリット】 1. 「学校削減」から「地域最高の子育て拠点新設」への価値転換 学校の統廃合は地域住民から反発を受けやすいテーマですが、そこに保育園や子育て支援機能を組み込むことで、「地域の拠点を減らすコストカット」ではなく、「持続可能で手厚い次世代の子育て・教育エリアを新設する」という地域活性化のポジティブな改革になるかと思います。 2. 保育園から学童までワンストップ化による「小1の壁」の打破 保育園から小学校へ上がるタイミングで、預かり時間の短縮や夏休み等の対応に直面するいわゆる「小1の壁」は、働く保護者にとって極めて深刻な課題です。同一敷地内に「保育園・小学校・学童保育」がワンストップで揃うことで、環境変化のストレスを無くし、保護者の送迎負担や移動時間を劇的に軽減できます。 3. 「小1プロブレム」の解消と教育・保育の質の向上 未就学児が日常的に小学生・中学生の姿を見て育ち、学校の環境に慣れ親しむことで、入学時の環境変化による不適応（小1プロブレム）を未然に防ぎます。また、保育士・幼稚園教諭と小中学校教諭が日常的に顔を合わせることで、子どもの成長や特性に関する情報共有・引き継ぎが極めてスムーズになります。 4. 財政・アセットマネジメント（公共施設管理）の最適化 老朽化した保育園と小中学校を別々に建て替え・改修するのではなく、一つの複合施設として集約することで、建築コスト、将来の維持管理費、光熱費などのランニングコストを大幅に抑制できます。少子化で生まれる学校の余剰スペースを有効活用する、極めて合理的なアセットマネジメントではないかと考えています。 5. 異年齢交流による豊かな人間性の育成 中学生・小学生が日常的に園児と触れ合う機会（家庭科の保育実習の日常化や、学校行事での交流など）が生まれることで、上の世代には思いやりや責任感が育ち、下の世代には憧れや社会性が育つという、地域一体での高い教育効果が期待できるのではないのでしょうか。 【事例】 実際の先進事例としても、島根県隠岐の島町（都万小中・こども園の一体化）や東京都渋谷区（本町学園）など、全国の自治体で「幼保小中・学童」を集約した次世代型の複合施設化が進んでおり、本市でも十分に実現可能な現実的施策であると考えます。子どもたちが主体の再編になるよう期待しております。	建設的なご意見をいただきありがとうございます。ご意見を参考にさせていただきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
72	57	昨日、説明会に参加いたしました。 現状と将来展望に沿ってよく練られた計画だと思いました。 学校に通う生徒さんについては理にかなったもので素晴らしいと思います。 一方で、市民のインフラとしての学校施設という観点が薄いと感じました。 会議でも質問しましたが、学校は震災時の避難所、風災害時の避難場所でもあります。 資料を拝見した限りでは、このプロジェクトの協議体や、今後の検討プランの中に、防災対応の要素が見つけられませんでした。 座間市は県央4市の中でも防災意識が高い所ですので、同様な疑問を持たれる方も多いのではないのでしょうか。 多角的な観点が必要であり、教育委員会のみでプロジェクトを進めることは、やや片手落ちな感じがいたします。 また、せっかく学校再編を考える良い機会なのですから、学校区と自治区の一致についても整備されてはいかがでしょうか。 厚木市などは、双方を一致させて、行政の効率化と、地域の活性化を行っていると聞いております。先生の中にも、厚木市との交流人事で、その事を実感されたという方の話を伺ったことがあります。そのような要素も取り入れる良い機会ではないのでしょうか。 話を広げると前に進まない面もありますが、このプロジェクトの対象が、学校に通う児童生徒のみになっているように映ります。 以上です。	本計画策定においては、防災を担当する危機管理課も含めた検討組織により、庁内横断的に策定作業を進めております。 「これからの子どもたちにとってより良い環境を整えること」が大前提とはなりますが、引き続き防災の視点も持ちながら、策定作業を進めてまいります。 なお、「ざま魅力ある学校づくり方針（R6.3）」では「地域とともにある学校」を方針の一つとして掲げているため、通学区域と地区との整合についても、市自治会総連合会と連携しながら図ってまいります。
73	58	統合案については異論はない。一方で、現在、様々な団体が学校施設を利用していることから、団体の活動・利用に十分配慮してほしい。 また、廃校（移転後）の跡地・施設の利活用についても、地域の意見を聞いて、統廃合計画策定と並行して検討してほしい。	ご意見として受け止めさせていただきます。 また、「ざま魅力ある学校づくり方針（R6.3）」では「地域とともにある学校」を方針の一つとして掲げているため、学校と地域が繋がりをもてる拠点とすることも検討しています。 なお、跡地活用については、計画策定後に検討していく想定です。
74	59	座間中敷地内への相東小学校移転・併設に関する意見 1. 体育館・校庭の共有に伴う授業・行事スケジュールへの懸念について 相東小学校が座間中学校の敷地内に移転し、体育館や校庭を小・中学生で共有する場合、利用頻度が大幅に増加することが予想されます。特に日中の体育の授業や、運動会・体育祭などの学校行事、天候不良時の対応において、スケジュール調整が非常に難航するのではないかと危惧しております。 つきましては、双方の教育活動に支障が出ないよう、どのような具体的な運用ルールや時間割の調整、または代替措置をお考えなのか、具体的な対策をお聞かせください。 2. 放課後の小学生の遊び場確保について 放課後、中学校の校庭は部活動で日常的に使用されることが想定されます。これにより、放課後に小学生が校庭で自由に遊ぶことが実質的に難しくなるのではないのでしょうか。子どもたちの健やかな成長には外遊びの場が不可欠です。放課後の小学生の居場所や遊び場の確保について、敷地内または地域全体でどのように考えておられるのか、具体的な方針を提示してください。 3. 小学校用遊具の設置とその実効性について 小学校の併設に伴い、座間中の校庭に小学生用の遊具などを新たに設置する計画はあるのでしょうか。仮に遊具が設置されたとしても、前述の「中学生の授業・部活動との兼ね合い」や「安全面での空間分離」によって、小学生が実際に遊べる時間やエリアが極端に制限されてしまっては本末転倒です。「設置したものの実質的に使えない」という事態に陥らないよう、利用時間帯の区分やエリア分けなど、実効性のある活用計画をどのように描いているのか説明を求めます。	学校運営の具体的な対策や検討は、再編前に設置する、「（仮称）〇〇学校区魅力ある学校づくり準備委員会」や、学校を改築する際の基本構想や基本計画策定時に進めていきます。 なお、中学校敷地内で小学校を運営している先進事例があるため、そちらも参考にしながら検討を進めます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
75	59	説明会参加を経ての、参加環境の改善要望および給食センター整備計画に対する意見 1. 子育て世代が参加しやすい説明会運営（保育スペース・保育士の配置）の義務付けについて 今回の説明会には多くのお子さん連れの保護者や地域住民が参加しており、本事業への関心の高さがうかがえました。しかし、会場に保育スペースや保育士の配置がなかったため、子どもが飽きてしまい、親が市側の説明に集中して耳を傾けることができない状況が見受けられました。 これでは、市側が「話を聞きに来たいなら、他に子どもを預けて来い」と市民を突き放しているように受け取られかねません。 住民の生の声を広く集めるためにも、次回以降の説明会においては、すべての開催日程で保育スペースを設置し、保育士を配置するなど、子育て世代が安心して参加できる環境づくりの対策を求めます。	今般の説明会では、子育て世代が参加しやすいよう、6/14に市役所で開催した全エリアを包括的に説明した回については、保育サービスを用意して運営しました。 開催手法については、従前の手法にとらわれず、より参加しやすい方法を模索してまいります。
76	59	2. 人口減少社会における給食センター建設の妥当性と財政リスクについて 市長より「4億円を投じて給食センターを必ず設置したい」との説明がありましたが、今後の子どもの人口減少が避けられない中で、多額の公金を投じて新たな施設を建設することの必要性に強い疑問を感じます。 将来的に児童・生徒数が減れば施設の稼働率が下がり、運用の維持費が膨らんで将来世代への足かせ（赤字事業）となるリスクが極めて高いのではないのでしょうか。 限られた財政財源である市民の税金は、発案者の宿願や一時の目標を叶えるためではなく、変化する時代のニーズに合わせた他の有効な施策へ投資すべきだと考えます。 子どもが減っていく未来の人口動態をふまえ、4億円という巨費を投じることの費用対効果や将来の赤字リスクに対する市の方針、および他事業への予算転換の可能性について明確な見解を求めます。	アンケート調査では、生徒・保護者の多くが、現在のデリバリー弁当よりも温かい給食（食缶方式）を希望しています。本市では、生徒・保護者のニーズに応えるとともに、食育の充実、食物アレルギーへの対応、安全・安心な給食の提供など、学校給食に求められる機能を将来にわたり確保するため、給食センターの整備を検討しています。 将来世代への財政負担や他事業との優先順位などは、教育委員会だけでなく、市全体の中で総合的に検討される事項です。 いただいた御意見は、今後の事業検討の参考とさせていただきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
77	60	本日『座間市学校再編計画』説明会に参加しました。質疑応答など含め色々な意見や質問も聞いた上で感じたことをお伝えします。まず、この『座間市学校再編計画』には賛同できません。 理由として。 ①学校づくり方針で示す『望ましい学校規模』に問題があるとは思えません。説明にあった、少人数であることでの授業への支障は感じられません。現在、私の子供たちは中原小学校に通っていますが、ひとクラスの人数はちょうど良いと感じております。全体的にミニマムのおかげで、先生方も全学年の名前を記憶しており、細かな声かけが常にできていると感じております。また担任も余裕をもって一人一人を見れるので過度なイジメなどがないことも明らかです。授業参観で拝見もしますが、グループワークでもちょうど良い人数に思えます。よって学習面も問題ないと考えます。また、立野台など大規模な小学校ではイジメが目立つと聞いております。先生方の目が行き届かないことが原因にもつながると考えております。これらを踏まえると、少人数だから閉校する、と言う理由には反対です。逆に、少人数の小学校の先生方から授業がやりづらい等、問題点はあがってきているのでしょうか？現場の先生方当人たちの意見はきちんと吸い上げておりますか？公務員だから上の決定に従うだけ、では済まされませんよ？ ②登校所要時間についてです。これは意見が多数上がっておりましたが、距離が1.5キロだから良いとはならないです。そもそもの『望ましい学校配置』の基準に納得できません。あなたたちにも家庭があるはずで。自分の子供たちに30分以上歩いて学校に行かせることを何とも思わないのでしょうか？もう子供が大きくなって関係ない、では済まされませんよ。学校に8時に到着することを考えたら、登校班の集合は7時20分頃ですよ？なぜそんなに早い時間から用意させて送り出さないといけないのでしょうか？共働きのご家庭ならもっと大変です。乳幼児がいたら尚更大変です。本当に子供や保護者の立場になって考えておられますか？到底そのように思えない説明会でした。 国や文科省の基準はあくまでも基準です。それを市の特性ごとに臨機応変にやっていくのがあなたたち公務員の仕事ではないのですか？何のために公務員になったのですか？住人のために活動できないのであれば辞めてください。税金が無駄なだけです。そんな方たちのために税金は払いたくありません。 未来ある子供たちのことです。優先的に考えてください。他市の良いところを座間市としてどう取り入れるのか、取り組めるのか、理想論だけでなく、もっと現実的に考えてください。もっと現場の声を聞いてください。今日の質疑応答の回答を聞いていたら到底賛同できません。	ご意見として受け止めさせていただきます。 望ましい学校規模、望ましい学校配置については、本計画のもととなる「ざま魅力ある学校づくり方針（R6.3）」で決めたものです。本方針の策定にあたっては、保護者、学校、地域、学識経験者で構成する検討委員会で、2年間に渡り協議、検討したほか、児童生徒の保護者、教職員等を対象としたアンケート結果などを参考に策定しています。 なお、少人数学級について、一定のメリットがあることは承知していますが、一方で「人間関係の固定化や多様な意見に触れる機会の減少」が生じたり「クラス数の増加により、教員の配置が難しくなる」などのデメリットも踏まえる必要があります。 さらに、児童生徒数については、時間の経過と共に減少していくことが避けられないものと認識しており、さらに減少が表面化した時点では、検討できる選択肢も限られる可能性もあります。 再編には相当の時間を要することから、現在から学校再編を具体的に検討する必要があるものと捉えています。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
78	61	老朽化に伴う立て替えはもちろん防災・安全面から賛成ですが、児童数減少が理由での統廃合については意見があります。 ①まず子供数減少について市として何か対策（子供数を増やす政策、子育て世帯への支援(保育園、学童入所数を増やす、)）を行ったのでしょうか？何もしなければ減っていくのは今の日本全体を見ても当たり前だと思います。市として対策を取ると同時に、学校ごとに人数のバラツキがあるのであれば学区再編で全体のバランスを取っていく。→それでも減少が止まらないのであれば学校再編で統廃合を考えるのが妥当かと考える。 中央エリアについて学校の適正人数の改善、老朽化した学校の再編と言う観点からいくと中原小は他の学校より築年数も浅いこと、隣の立野台小が児童数が多いことから考えると廃校にするよりまず中央エリアの学区を改める事が適正と思う。 ②子供は支援級に在籍しています。近隣の小学校との交流会では立野台と栗原の3校で行っている。仮に今の計画で再編になった場合、入谷小の子達とはお互いに交流もなく子供にとって心理的負担が大きい(→フォローする先生の負担増にもなる)ように感じる。再編の場合は栗原・立野台に分散するのが適切ではないか？ ③仮に今の暫定版で話が進んだ場合、1校辺りの児童数は増えます。その分、児童ホームに入所希望の子は増え1年生しか入所出来ない等といった環境では子供の安全は保てない。通学距離が長くなる家庭ではその分も危険も増えます。希望する人が全員児童ホームに入所できる環境も併せて整わないのであればこの計画には反対です。 ④西栗原地区は栗原小学校(南中学跡地)より立野台小学校への道の方が安全に感じる。歩道の有無や車交通量、道幅、坂道等をみて。単純に距離ではなく総合的に判断頂きたいですし、その判断に納得できない人は指定校変更できるようにして欲しい。再編によって影響を受ける地域に住む、これから入学を控えている全世帯にアンケート取った上で学区を見直しして欲しい。	いただいたご意見は受け止めさせていただきます。 なお、本市では、令和12年度までを計画期間とした第五次座間市総合計画に基づいてまちづくりを進めているところです。その中では、人口減少対策、少子化対策、学校再編を含めた公共施設の再整備といった課題に向き合いながら取り組んでいます。 また、再編時期については、12月に作成予定の原案でお示しする予定ですが、児童数が望ましい学校規模で収まることを目途に行う予定ですので、児童数は過大にならない想定です。 さらに、通学区域が変更となる通学路については、その距離や交通防犯上の観点を踏まえ、机上シミュレーションに加え、実際に登校時間帯に職員が歩いたり、登校班に同行して時間を計測するなど、実地検証を重ねながらその安全性について分析をしてまいりましたが、必要の応じて通学区域の選択ができるようにするなど、柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。
79	61	簡単に学校を統廃合するなどと考えないでほしい。中原小・旭小・南中を残してください。児童数減少傾向なのであれば学区を見直して人数調整すればいいと思います。学校が近いからと今住んでいる地区に引っ越してきた、そういうご家庭は多いと思います。 今は専業主婦より共働き世帯が多い時代です。子育て支援・共働き世帯支援をして子育てしやすい座間市になれば子どもは増えていくと思います。子供が減れば町は衰えていくだけ。今後の市の発展にも関わる話ですのでまちづくり全体として考えて頂きたいです。	ご意見として受け止めさせていただきます。 市全体として、児童生徒数の減少が進んでいるため、通学区域の見直しのみでは、望ましい学校規模を維持することは困難であり、課題を先送りすることになると考えます。 また、子育て支援や魅力あるまちづくりについては、学校のみならず、市全体で取り組む必要がありますが、良質かつ持続可能な学習環境を次世代に継承するためには、学校再編の取り組みが不可欠と捉えています。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
80	62	○少子化かつ人手不足の今なので統廃合することによって、学校全体の教育の質(教師の指導力、子どもを個々に見る力)が向上するのであればよいと思います ○通学距離も、坂道は多いながらも仕方ないのかなと感じました ○PTA活動に関しては、これを機に入学時に加入の是非を問うたり、不要なものは削減。共働き家庭に配慮したものにしていただけると助かります。 ○学童についても(現在の制度はよくわかりませんが)、学校単位ではなく家の近所の学童が利用できると助かります ○この計画に関わる子どもは現在の未就学児及びこれから生まれる子なので12月の学校説明会は全ての会場に託児もしくは遊べるスペースを設けていただきたいです。 その地区の説明を聞きたいのに全体の説明会にしか託児がないのは不便です。(もしくは子育てセンターの付近等で対象を絞って開くなどでもいいのでは?)座間市に住んでいるからといって、地区全体に詳しいわけではないし、興味もあまりありません。	ご意見として受け止めさせていただきます。 今般の説明会では、子育て世代が参加しやすいよう、6/14に市役所で開催した全エリアを包括的に説明した回については、保育サービスを用意して運営しました。 開催手法については、従前の手法にとらわれず、より参加しやすい方法を模索してまいります。
81	63	先日は説明会に参加させていただきありがとうございました。忌憚ない意見もあるかもしれませんが、あたたかい気持ちで文章をみていただければ幸いです。 ・熱中症対策について以前より諸々対策をしていただいていると感じています。救急車が足りない状況なので今後も危機管理を徹底していただけると助かります。 ・インクルーシブ教育について国連からは是正勧告がされている状況なので、座間市でも学校家庭地域でインクルーシブ教育についての理解、協力推進を進めていただけると助かります。 インクルーシブ教育は人に優しい教育だと思いますが、軌道にのるまでは学校側の稼働が大変だと思いますので、学校家庭地域で諸々協力しながら進めていけたらいいと思っています。 ・避難所としても使用する体育館のエアコンは随時設置予定とのことなので引き続きよろしくお願いいたします。 ・体育館に大きな鏡があると体育のときのダンスの練習、その他習い事のときにリアルタイムで自分の動きを確認できるので可能であれば設置をお願いします。 ・農家の方にご指導いただいているお米、さつまいも、とうもろこしの皮むき等は食育につながるので今後も続けていただきたいです。 ・コミセンのイベントで消防の防火服を着たのですが、重くて暑くてこれを着用して消火活動するのは大変だなと思いました。今後も学校、コミセン等色々なイベントで防火服を展示、着用させていただけると親子ともに消防関係の方の有難みが分かると思うので今後もよろしくお願いいたします。 ・給食試食会はできる限り多くの方に一度でも食べていただけると有難みがリアルに分かると思います。 ・子どもが通っている小学校でどのようにすれば学校がよくなるかの話し合い授業をしていただいたそうです。今後もこのような考える授業をしていただきたいです。 ・いじめ、不登校を防ぐために人権、ハラスメント教育をしていただきたいです。 ・双子(多胎児)についての教育をしていただきたいです。私は一卵性の双子の息子がいるのですが、以前年子より双子の方が楽だよね…と発言されたことがありとても傷つきました。人数関係なく子どもの命を育てることは大変です。双子の場合、一人より妊娠、出産リスクが高くなります。バニシングツインというお腹の中で一人が吸収されて消えてしまうこともあります。2人とも無事出産できるか本当に不安でしたし出産時も出血がひどく入院数日間は車椅子でないと歩けませんでした。双子用ベビーカーは重くて幅をとるので行ける場所に限りがありました。しかし本当に命がけで産んでとても可愛い子どもたちなので今も何とか頑張って育てています。双子などの多胎児について知らない方が多いと思うので、多くの方にご理解いただけると多胎児の育てている親御さんも安心して育てていけると思います。 ・現在小学校のコミスクボランティアを時々やらせていただいているのですが、PTAより負担が少なく楽しくやらせていただいています。文部科学省推進のPTAではなくPTCAという取り組み、地域学校協働活動という取り組みもありますので、座間市でも早急にそちらの方向で進めていただけると助かります。私はこれからの学校家庭地域にとってもよい取り組みだと思っているので可能な限り協力させていただきたいと思っています。 ・学校、体育館のトイレのリフォームをお願いしたいです。現代は綺麗なトイレだと安心してトイレに入ることができるお子さまが多いです。トイレを我慢することは身体に良くないことなのでこちらもお願いしたいです。 ・中学校の体操着が紺色になって泥汚れがめただなくなって買いかえも少なくなりとても助かりました。 ・生理、性教育についてしっかりと教育していただきたいです。早すぎる年齢での妊娠、性病の怖さを理解していただけると悲しい思いをする方が少なくなると思います。 今後も元気で明るく楽しい座間市であってほしいので、学校家庭地域全てが協力しあって諸々なことを進めていただけると助かります。	たくさんのご意見をいただきありがとうございます。 内容が多岐にわたるため、関係部署に共有し、受け止めさせていただきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
82	64	現在、子供が中原小学校に通っています。 財源の振分け上の取捨選択の必要性、施設の耐用年数、子どもの数が逡減している事実など、様々な要因に伴う今回の再編計画における中央エリアの方針に対して、概ね賛同します。 但し、中原小廃校に当たって、いくつか検討要望事項として意見します。 ①私の住む地区は、元々中原小学区と立野台小学区とで分断されている地域ですが、今後立野台小に再編される予定の地域となったことについては、むしろ有難いと思っており、現状の暫定計画のまま進捗してほしいと切に願っています。 一方で中学校区が今後どのように再編されるかまでは、小学校ほど明確に言及されていないように感じており、おそらく引き続き栗原中学校区のままだとは思いますが、今後の方向性によっては中学校区の再編内容についても、大きく変更され得るかどうかについても、丁寧な説明を要望します。 ②先日の学校づくり説明会に参加したところ、多くの保護者から今回の再編計画における通学距離の捉え方についての意見が数多くありました。座間は起伏が激しい土地柄ですし、特に中央エリアに関しては、他のエリアよりもその程度が大きいように感じます。地区によっては数字上の距離の評価だけでは、実感する距離感を正しく評価できず、計画の想定と子どもたちの負担感が大きく乖離してしまう可能性を懸念しています。そうであっても、必ずどこかには明確に線引きする必要があると思いますし、現行学区で同様の苦勞をしている子供がいるとして、その苦勞が別の子供に取って代わるだけの話かもしれません。しかしながら一方的な計画の提示によって変更を余儀なくされる家庭にとっては容易に受け入れられるものではないことも事実かと思ひます。そういった世帯に対しては、激変緩和措置の一環として、例えば既存コミバスの運用を一部変更したり、児童のコミバス利用料を補助したりといった方法など、妥協点を見出す必要もあると思ひますので、計画への満足度がより一層高まるよう、ぜひ臨機応変な対応が可能な計画となることを要望します。 ③南中が栗原小に転換される工事を踏まえると、自分の子供が小学校在学中に再編されることはないかもしれませんが、過渡期に当たることは確実だと思ひています。級友との別れや、新しい環境への適応は大きなストレスになりますし、孤立感を感じてしまうことを懸念しています。大人の都合を子供は理解できないですし、素直に受け入れることも難しい年頃でもあります。ハード面の準備は当然として、心のケアという子供自身のソフトの面について、事後的なサポートのみならず、事前の十分なケアや心の準備（覚悟）ができるようなサポート体制の構築を要望します。 ④最後に、廃校予定校でも必要な改修は行っていく旨、説明会で伺いましたが、それは確実に実行していただくよう要望します。中原小は比較的小規模な学校であり、現在リーディングDXスクール指定校に指定されているなど、学校の特色に合わせた教育を実践いただいていると思ひます。そのような教育のあり方についても、廃校予定校であっても他校と遜色ない水準で引き続き遂行していただきたいことを要望します。	ご意見として受け止めさせていただきまひます。 計画全体を通して、柔軟性をもって児童生徒への影響が最小限で済むよう、配慮をしていきたいと思ひまひります。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
83	65	先日の説明会に参加しました。質疑応答の時間に多くの参加者から意見があったように、私も通学時間・距離が長くなる児童・生徒がいることが心配です。我が家の場合の学区は、栗原小学校・南中学校です。住まいは、栗原小学校までは子供の足で徒歩20～30分程度、南中学校までは5分の距離です。小学校の通学はアップダウンもありやや遠いですが、集団登校であることや小学生は帰りの時間が遅くならないことから許容範囲と感じています。中学校に関しては部活動で朝練や帰宅が遅くなることもあります。近いので安心していました。 ですが、南中が廃校となると、栗原中学校か東中学校になります。選択できる場合、東中学校への通学は坂道がなく歩きやすいと思いますが、実際は友人が多く進学する栗原中学校を選択する可能性が高いです。栗原中学校まではアップダウン激しく徒歩30分弱ととても遠いです。2km圏内なら規定範囲といいますが、そんな距離を重い荷物を持ち、制服の下にジャージを着て歩かせるなんて可哀想で仕方がないです。自分だったら歩きたくないです。夏なんてはっきりって地獄だし、体調・命に関わります。もしこの計画が進み南中が廃校となるなら、通学方法についてしっかりと考える必要があります。自転車通学は走行しやすい道はなく、交通事故が心配です。アップダウンが激しく真夏は体力の消耗、熱中症が心配です。中学生に身を守る判断力があるとは思えません。 路線バスが通っているのですこれらの利用ができればいいと思います。 現在、中学生の子供がいますが、テスト前の教科書＋タブレットの持ち帰りのリュックサックはとても重く計量してみたところ9kgありました。毎日その重さではないとはいえ、生徒によっては部活の荷物があることもあります。大人なら荷物の管理、通学の仕方が選べますが、中学生はそうではありません。 またこの計画自体、子供のためになっていないと質疑応答の時間に意見されている方がいました。その方の意見に賛同します。「子供が少なくなっているから学校を減らす」それ以外にもやり方はあるはずです。学校という広く大きな建物をなくしてしまうのはあまりに勿体ないです。放課後は子供が遊べる貴重な校庭があります。自然災害のときの避難場所でもあります。 学校の数が少ない座間市、減らした座間市から今の子どもたちは将来離れていってしまうことでしょうか。新たに住みたいファミリー層は減るでしょう。保護者は交通事故や熱中症を心配しているのです。計画の見直しをするなら今です。どうかよろしくお願いいたします。	ご意見として受け止めさせていただきます。通学方法や負担の軽減について、今後も検討してまいります。
84	66	統廃合について、今回の説明資料を確認し、大いに反対致します。人口減少は座間市だけの問題でない無いと思います、学校維持も税金がかかる事は分かります。ただ、教育の場と税金の費用対効果は別の問題と捉えます。 教育の場は、子供達の居場所です。統廃合ありきでは、それこそその時の人口にあわせた、フレキシブルに、学科を分けても良いのでは無いのですか？兄弟のいる家庭では学年毎に学校を変える訳にはいかないけど、でも学年に分けてフレキシブルに学校を選べるなら魅力的だと思います。海老名市や大和市、綾瀬市には無い、座間市の魅力ある教育政策で人口増やして、税収を増やす事で、今ある学校を活かすまちづくりをお願いします。この統廃合の案ですが、市民（現役世代）で市民投票は出来ないのですか？市議会議員選挙より、大事だと思います	ご意見として受け止めさせていただきます。本計画素案（暫定版）については、広く市民の皆さんから意見を伺うため、座間市市民参加推進条例に則り、住民説明会やパブリックコメントを実施しました。これらの市民意向を把握しながら、素案（確定版）、より良い計画となるよう策定を進めていきます。
85	67	統合することには賛成ですが、編成の仕方に意見があります。小松原2丁目の通学の距離がかかり過ぎます。特に年々暑くなる夏の日、雨の日など通学が子供の足では困難に感じます。また学校へ通う時間がもったいなくも感じます。通学距離を短くすることで、放課後子どもたちは有意義な時間を過ごせるのではないのでしょうか。大人でも30分以上掛かる距離なので、小松原2丁目はひばりが丘小学校、東中への通学が望ましいと考えます。	ご意見として受け止めさせていただきます。なお、小松原2丁目の再編は、相模野小学校が現在の相模中学校の近くに移転された後に行う想定です。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
86	68	計画案拝見しました。 学校再編に対する反対意見は特にありません。多くの視点で配慮がなされており、むしろ歓迎です。 中でも、指定校変更許可区域を多くの地域で早急に実施して頂けるとより良いと思いました。 再来年度から小学生となる息子がおりますが、正直な意見としましては廃校になる可能性がある学校とわかっている状態ではできれば通わせたくはないです。 在校生の皆さんには申し訳ないですが、多感な時期に学校や同級生が変わるストレスは大きいものです。自身も小中学校での合併を経験しております。 また現在の学区の切り方も子持ち家庭の分布や、今の治安の中子供が歩くべき距離を考慮できていないと思うので、そういう意味でも早急な実施が適切かと思えます。 ちょうど自分の家がいい例です。目の前に立野台小があるのに、どのような配慮があったのか不明ですが遠くの中原小の区分になっています。 これらの理由から学区の再編や指定校変更許可の早急な制定を望んでいます。再編の予定も加わったことで、同じような考えの家庭が多くいられると思えます。ご考慮頂ければ幸いです。	ご意見として受け止めさせていただきます。 再編にあたっては、出来る限りその影響が少なくなるよう、小学校であれば、再編する年の6年前、中学校であれば再編する年の3年前から、移行期間として、再編前後のどちらの学校にも通えるような柔軟な対応ができるよう検討しています。
87	69	座間市の現状から学校をはじめとした公共施設の統廃合は致し方ないことだと思うので、今回の再編計画については概ね賛成です。 しかし、特に小学生の通学距離が伸びてしまう家庭が増えてしまうのは心配です。 小学校によっては1年生の4時間下校が週2回のところもあります。特に夏場は15分歩いただけでも顔を真っ赤にして帰ってきます。 学校の再編計画とは少しずれてしまいましたが、夏場だけでも13時台の下校を減らす。子ども達の下校が早くなる面談期間は6月中に終了させる等の下校の配慮をした学校運営を検討して頂きたいです。	夏場の熱中症対策等については、学校再編に関わらず、検討を進めていきます。
88	70	11日の説明会に参加して、率直な意見として中原小廃校にともない入谷東4丁目のみ入谷小へ転校の案に関して市からの説明が一切なかったことに対して不誠実に感じました。どう言った経緯で入谷小への転校となったのかしっかり説明をしていただきたかったです。この地域の子ども達が急な坂、長い道のりを歩いて登校させてまで意味のあることなのか今一度考えて欲しいです。私が望むことは子どもが安全に学校へ通えることです。 また入谷東4丁目に住む未就学児、小学生のいる世帯に意向調査（アンケート）をとって市民の意見を反映してほしいです。 子育て世代の参加者がとても少なかったように感じました。市民への周知が行き渡っていないように思うので、再編計画について保育園や幼稚園に通う保護者へ、もっと積極的に知らせた方が良くと思います。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）なども踏まえ総合的に検討していますが、選択ができるようにするなど柔軟性を持たせられるよう検討を進めていきます。 また、説明会等の開催手法、周知後方の手法については、従前の手法にとらわれず、より参加しやすい方法を模索してまいります。
89	71	1. 分散進学の解消について 「座間市における望ましい学校配置」（P.7）および「小中連携教育の推進」（P.8）の中で、「可能な限り、一つの小学校から全員が同じ中学校に進学」および、「分散進学の実現」と記載されているが、分散進学におけるデメリットを明示すべきである。 当該素案において分散進学が悪かのような書きぶりが見られるが、分散進学は何十年にも亘って運用されてきた実績がある。私自身も、小学校から中学校へ進学する際、分散進学を経験した一人である。このように長期間、メスを入れることなく運用されていることから、分散進学は適切な運用であると考え。とある歌謡曲の歌詞の中にも、「別れと出会いを繰り返しながら、時代は回る、巡る」と謳われているように、人生において別れと出会いというものは必ず発生する。そこから人生の学びを得ることもたくさんある。小学校から中学校に進学する際、全員が同じ中学校に進学する必要性は無い。また、分散進学が不適切な運用であったとするならば、何十年にも亘って不利益を被ってきたこれまでの全児童、全生徒への謝罪と補償が必要である。分散進学のデメリットをしっかりと明示していただきたい。	ご意見として受け止めさせていただきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
90	71	2. 入谷東4丁目住民の通学先について 「エリアごとの再編プラン」の、「西部」(P.16)および「中央」(P.18)において示されている中原小学校廃校後の学区割りについて、入谷東4丁目の住民は、小学校は中原小から入谷小に、中学校は栗原中と西中の選択制にする旨の記載があるが、立地的にも小学校は立野台小学校区、中学校は現行通り、原則、栗原中のみとするのが適当である。特に当該地区の住民に対し、中学校を選択制とする意味は全く無い。誰がわざわざ山を越え、小田急電鉄の小田原線、東日本旅客鉄道(JR東日本)の相模線といった鉄道路線2路線分を越えた先の中学校に、選択してまで進学する意味があるのか、少し考えればこの選択制導入は無駄、愚行の極みであるというのは明白である。また素案通りに中学校を栗原中及び西中の選択制とした場合、立野台小からある児童は栗原中に、またある児童は座間中に、そしてまたある児童は西中に、と三中学に及んで分散進学が発生することになる。これは素案の「座間市における望ましい学校配置」(P.7)および「小中連携教育の推進」(P.8)で語られている、「可能な限り、一つの小学校から同じ中学校に進学」及び「分散進学の解消を実現」から大きく離れる結果となり、大きな矛盾が生じている。単なる人数合わせでしか考えていないため、実態に即しておらず、市民が不利益を被る発想が容易になされるのではない。また、座間市および座間市教育委員会自身が掲げる、「学校づくり方針 3つの柱」(P.9)と整合性の取れていない考えが安易に発信されているのである。特に後者に関しては非常に重大な問題であると感じている。それは、座間市および座間市教育委員会内部で自身の発信内容に矛盾が生じていることや、疑問を感じる人間がおらず、内部で指摘が無く、そのまま市民へ公表されていることから、座間市および座間市教育委員会の組織に対する不信感を抱かざるを得ない。入谷東4丁目住民における、小学校および中学校の学区割り素案のメリット及びデメリットの回答、また、学区割りの再考を求める。 なお、概算の距離となるが、多くの児童、生徒が歩行することになると予想される経路を基に、地図上で入谷東4丁目と立野台小、入谷小、栗原中と西中との距離を算出した結果は以下の通りである。 立野台小 入谷東4丁目ー立野台小：約1.5km 入谷小 入谷東4丁目ー入谷小：約1.6km 栗原中 入谷東4丁目ー栗原中：約2.5km 西中 入谷東4丁目ー西中：約2.7km 立野台小と入谷小、栗原中と西中との差はそれぞれ約100m~200m程度の差であるが、入谷東4丁目における宅地造成等の進行で立野台小、栗原中への歩行経路は更に短縮されることが予想されるほか、栗原中へは、私が算出に用いた経路とは別の経路を利用すると、更に400mほど短縮された約2.1kmの経路も存在する。その他、隣接する立野台2丁目、3丁目との立地、通学路上に存在する鉄道路線などを鑑みても、入谷東4丁目の学区転換想定区域における入谷小、西中への通学は極めて不適切な選択であると考えている。	通学区域は通学距離だけでなく、学校規模(児童生徒数)や地域特性なども踏まえ総合的に検討しました。入谷東4丁目については、入谷東4丁目全体として同じ通学区域にするという地区との整合がメリットとしてある一方で、通学距離が延びることについてはデメリットであると認識しています。通学区域については、柔軟に対応できるように検討してまいります。
91	71	3. 中原小学校廃校後の跡地利用について 「中央」(P.18)において、廃校となる中原小学校の跡地利用方について回答を求めたい。中原小について素案では、「土砂災害警戒区域を校庭に含み、傾斜地に立地」としており、現状、その表現に異論は無いが、そのような土地は、廃校としたとしてもその後の土地利用ができず、結果として広大な遊休地を生み出すだけになってしまう恐れがあるのではないかと考える。23ページにおいて、「使わなくなった学校施設や敷地については、有効に利活用ができるような検討体制を整備する」と記載していることから、現時点での想定も含めて、中原小跡地の活用方を明示していただきたい。また、同じく23ページでは「市民意見等を参考にしながら、取組を進めていく」と明言していることから、意見を提示したい。跡地利用も難しい土地であることから、現状に加えて、法面の更なる補強工事の実施、治水工事を実施し、中原小を廃校にせず、廃校ありきではなく、存続もしっかりと視野に入れ、座間市および座間市教育委員会だけの考えのみならず、住民の意見を最大限尊重した議論を進めるよう求める。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、跡地利用の具体的な内容については、まちづくりや公共施設全体の再整備とも関わるため、再編計画の策定後、庁内横断的に検討していきます。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
92	71	4. 相武台東小学校の座間中学校敷地内移転について 「中央」(P.18)において、相武台東小学校の座間中学校敷地内への移転について記載があるが、実施するメリットの提示を求める。当該施策は、「小中連携教育の推進」を無理矢理にでも実施したいがための施策にしか見えない。「小中連携教育の推進」を実施するならば、西部エリアの座間小学校敷地内に、西中学校を移転させる方が、児童および生徒の通学負担軽減という観点からも現実的かつ、実施メリットがあると感じられる。また、座間小学校は築年数が60年を超え、老朽化も進行していることから、校舎の建て替えを実施することで、建物の老朽化対策、小中連携教育に最適な校舎建設も同時に進めることができ、メリットが大きい。施策実施箇所の見直しを求める。	当該再編案のメリットについては、小中連携教育の推進の他、相武台東小学校の校地に斜面地や目久尻川（水路）暗渠が縦断しているため、現在の敷地での建替えをする場合の諸課題を回避できることです。 ご意見の座間小学校敷地内への西中学校の移転については、庁内検討組織で実現可否について検討した経過があり、計画期間（20年間）における児童生徒数等をシミュレーションした結果、小中を運用するための敷地面積が足りず、かなりの高層化をしない限り、学校運営に支障をきたす規模となり、周辺環境への影響などから実現が困難と判断しました。
93	71	5. 旭小学校の廃校是非について 「東部」(P.20)において、なぜ、旭小学校を廃校とし、ひばりが丘小学校を存続させるのか、大いに疑問であることから、納得できる根拠の明示を求める。東部エリアにおける現状の小学校配置、築年数および、現在から20年後にかけての児童数の見通しを考慮しても、廃校にすべきはひばりが丘小学校一択であり、旭小学校は存続させるべきである。また、同じく20ページには、「老朽化のため、ひばりが丘小学校を建替え、工事期間中は仮設校舎コスト削減のため、旭小学校を一時使用」と記載があるが、尚のこと、旭小学校を廃校にするメリットが全くないといえる。ひばりが丘小学校関係者に対する何らかの臆惧、忤度が発生していると市民から捉えられてもおかしくない愚行が繰り返されようとしていることについて、納得できる根拠の提示を求める。	ひばりが丘小学校は、立地が東中学校と隣接しており小中連携教育を進めやすいこと、学校敷地の形状が四角く建替え時などに整備しやすいこと、旭小学校のように周辺に住宅が密集しているような状況でもないことから、学校運営や工事实施時の周辺の影響が少ないため、ひばりが丘小学校を残す案としました。
94	71	6. 「北部」エリアの計画について 「北部」(P.22)において、案①が適当であると考えてる。	ご意見として受け止めさせていただきます。
95	71	7. 自転車通学認可について 「学校再編に伴う配慮・対策」(P.23)における「自転車通学（中学生のみ）」について、自転車通学を認めた場合、電動アシスト機能付き自転車の購入費負担は座間市が行うべきであると考えている。当該自転車は、坂の多い座間市で生活するにあたっては必須であると考えているためである。しかし私は、自転車通学についてどちらかと言えば反対である。警察協力のもと、交通安全教室等も実施しているようだが、過去から現在にかけて、児童、生徒による危険な自転車利用が散見される。私自身も座間市内において実際に、坂をブレーキもかけず、猛スピードで進行してくる自転車に恐怖を感じることも多々ある。そのような自転車利用者自身の危険使用も含めて、徒歩以上に自転車は事故リスクが高くなることから、自転車通学容認ありきで議論を進めないでいただきたい。自転車通学案の代替案として私が訴えたいのは、コミュニティバスの車両をスクールバスとして活用する案である。定員10名の車両がほとんどなど、定員の面でデメリットはあるが、一度に大人数を輸送でき、既存のコミュニティバス車両を活用することで、新規にスクールバス専用車両を導入する必要性もない。また、雨天時において長時間濡れる心配、夏季などでは通学時の熱中症リスク軽減が図れるなど、通学時におけるストレスが減り、そこから学習の質の向上にも期待できると考えている。市民からの意見集約など、多角的な観点から、議論を進めることを求める。	ご意見として受け止めさせていただきます。
96	71	8. 思い出の継承について 思い出の継承(P.23)について、廃校および移転時点に在籍する児童、生徒、教諭、児童および生徒保護者のみならず、該当する小中学校の全ての卒業生も可能な限り、巻き込んで行っていただきたいと切に願っている。私は廃校になるとされている中原小学校の出身である。立地条件等を鑑みても廃校判断はやむを得ないものと認識しているが、6年間を過ごした小学校の廃校の知らせには寂しさを感じている。このような思いを抱いているのは私以外にもいるだろう。廃校となる小中学校に関係した全ての人間が、悔いの残ることが無いよう、お別れできる施策を、市民からの意見集約を行いながら実行していただきたいと切に願っている。	ご意見として受け止めさせていただきます。 なお、具体的な実施方法等については、計画策定後に検討を進めて行く想定です。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
97	71	総括 この再編計画は、座間市および座間市教育委員会の自己中心的な私利私欲だけが述べられた、公共性が全くないものであると断言できる。全員が同じ尺度で物事の詳細を検討していないため、座間市および座間市教育委員会自身が掲げる方向性から大きく矛盾し、明らかに整合性の取れていない箇所があるというのは言語道断である。 また、明らかに廃校すべき学校を存続させ、反対に、存続すべき学校を廃校にさせるという考えを見るに、何らかの臆、忤度が働いていることは明確であり、仮に事実と異なっていたとしても、そう市民に捉えられても全くおかしくない内容である。 これらのことから、当該意見書2項においても指摘しているが、座間市および座間市教育委員会という組織に不信感を抱かざるを得ない。 その他にも、全てのエリアにおいて、「自治会連合会区割と学区の整合」を謳っているが、少子高齢化やその組織運営の煩わしさから加入率が低下し、神奈川県内市町村において最低水準にある座間市の自治会と学区の整合性を取る必要は本当にあるのだろうか。現状、整合性が取れていないことで、学校運営に何かしらの影響が出ているというのか。自治会という組織体に関する議論は、この再編案および意見書における趣旨から大きく離れるため割愛するが、先述のとおり加入率が低下し、弱体化が進む自治会と学区の整合性を取らせたい明確な根拠を市民に提示すべきである。 学校再編によって一番影響を受けるのは児童、生徒、つまり座間市で暮らす子供達である。子供達はこれからの座間市、ひいては日本全体、世界全体を引っ張っていく存在である。その子供達を蔑ろにすることは決してあってはならない。 本来あるべき学校再編案の形は、学校における主人公である子供達が、最も利益を受けられる案が提言され、子供達の利益を最優先に、大人たちが議論を交わしていくことである。しかしこの再編案はどうだろうか。子供達のことは二の次、三の次となり、一部の大人にのみ利益が発生し、子供達のことはほとんど考えられていない再編案になっていないだろうか。この再編案を作り上げた諸君は、子供達に向かって堂々と、子供達最優先で議論してきたと言えるだろうか。座間市および座間市教育委員会には今一度、胸に手を当てて、振り返って欲しい。 私は座間市で生まれ育ち、30年近く座間市に居住している。座間に対する郷土愛を少なからず持っているつもりである。そのような座間市に関して、今、座間市に住む子供達にも座間市に生まれ育つことができたことへの喜び、座間市への郷土愛を持ってもらいたいと強く願っている。だからこそその子供達が、自分たちの通う小学校や中学校のことでストレスを感じ、そこから派生して、学校を管轄する座間市および座間市教育委員会に疑念や嫌悪感を私のように決して抱いて欲しくないため、私はこの意見書を作成する決意を固め、素案を熟読し、疑問、疑念を抱いた部分の意見を申し上げた次第である。 私以外にも、多くの市民から各種意見が寄せられているかと存じる。募った意見はしっかりと受け止めていただいたうえで、座間市政の中枢を担う者、座間市教育委員会関係者、座間市の名誉的発信を行う著名人等に対して、臆、忤度が一切無く、また、自身の発信内容に矛盾の生じていない再編計画の再提出および、この意見書で求める事項への明確な回答を、全座間市民に対して提出されたい。	ご意見をいただきありがとうございます。ありがとうございました。 学校は地域の方々にも支えられながら運営していることから、学区は原則として地区の中核を担う自治会区に基づき設けることで、地域における様々な活動との関係にも可能な限り配慮したところです。 なお、主体である子ども達にとって、持続可能で望ましい学習環境を整えることを第一に考えながら、皆様からいただいた意見を受け止め、本計画の策定を進めてまいります。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
98	72	1. 栗原小学校と南中学校の入れ替え案の必要性と矛盾 入れ替え案は、通学動線・施設状態・費用対効果のいずれの面から見ても、現在の場所での建て替えや改修を検討すべきでは？ 【理由】 ① 通学動線の不自然さ 栗原小の児童は将来的に栗原中学校へ進学します。両校は隣接しており、生活動線として非常に自然です。また地域コミュニティの枠組みとしても不自然であり、トレードを行う意味が見出せません。 入れ替え案では、小学生時は、南中学校へ遠く通う、中学生になると栗原中へ戻るという二度の大きな動線変更が発生します。 ② 市の説明との矛盾（通学負担軽減の不一致） 素案には「児童居住地のアンバランス解消」「中原小の通学負担軽減」とありますが、栗原小の児童の負担は増加します。また一部の中原小学校の児童（立野台の一部と天台付近）は入谷小へ登校するほうが良いのでは？ ③ 施設劣化に関する説明の矛盾 市は中央エリアの説明で、栗原小は建て替えが必要 南中は築年数が比較的新しいが”劣化が進行している”と記載されています。 にもかかわらず、劣化が進行している南中を「新・栗原小」として転用する理由がありません。 通常であれば、劣化が進行している建物に、小学生を移す合理性はありません。 ④ 改修・移転コストの不合理性 南中の小学校化には、給食室の新設、トイレ・手洗い場の低学年仕様への改修、遊具設置などの多額の費用が必要です。 巨額の費用をかけて小学校用の給食室の新設や低年齢児向けの改修を行うよりも、栗原小の建て替え、または大規模改修を行うほうが、コスト面・環境維持の面でも合理的かつシンプルであると考えます。	ご意見として受け止めさせていただきます。 通学区域は通学距離だけでなく、学校規模（児童生徒数）なども踏まえ総合的に検討しています。 なお、南中学校は施設劣化が進行しているため、長寿命化改修を行う必要性があります。 また、長寿命化改修については、一般的に建替えの6割程度の費用で行えるといわれており、コスト面的にも優れていると考えています。
99	72	2. 通学路における安全面の課題 学校の配置転換にともない、通学路の危険性が増える可能性があるが、安全対策が示されていません。子供の命に係わる安全対策の具体案をお願いします。 また、通学距離の長期化は児童の体力的な負担だけでなく、人通りの少ない「死角」を歩く時間を増やし、防犯面のリスクも高めると感じています。 【理由】 ① 中原小学区の子供たちが通る国道246号線沿いの危険性（交通事故の確率上昇） 大型車・トラックが多い 交通量が多く、特に朝は交通量が非常に多い 横断歩道の距離が長い 国道246を避けた通学路とした場合でも、ガードレールが不十分 坂が多く雨天時は特に危険 ② 歩道の狭さ・防犯上の死角 すれ違いが困難な歩道があり、集団登校としてはどうか。 通学距離が伸びることで、防犯上のリスク増加 ③ 市の安全対策が示されていない 歩道拡幅 ガードレールの設置 危険個所の改善計画 具体案がありません	計画の具体化にあたっては、教育委員会・学校等の関係者による通学路の安全点検を改めて実施し、危険箇所の抽出と対策（横断歩道の設置、歩道の改善、見守り体制の強化等）を検討して行く想定です。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
100	72	3. 児童ホームの動線と待機児童リスク 児童ホームの位置・安全性・キャパシティへの影響が検討されていません。 学校配置が変わることで、共働き世帯に不可欠な児童ホームの場所や規模にも影響が出ると予測されますが、素案にはまったく触れられていません。 放課後の移動における安全性が損なわれては、本末転倒では？ 【理由】 立野台小・栗原小・中原小の子供たちが通う待機児童ホームの設置場所である立野台コミセンは南中跡地から遠く、放課後児童ホームまでは大人の付き添いは無く子供だけで移動するため、 国道246等の交通量の多い道路の横断の可能性、低学年の負担増が避けられません。 学校再編と児童ホームは一体で検討すべきです。	計画策定にあたっての検討体制には、児童ホームを所管する担当も参画しているため、一体で検討を行っているところです。 統合時の具体的な対応については、今後検討を進めていきますが、基本的に学校敷地内への整備をしていく想定です。
101	72	4. 将来人口の不確実性と20年計画の硬直性 単一シナリオの人口推計では、不十分と感じます。 現在周辺にある田畑が将来的に宅地化された場合、想定を超えて児童数が一時的に増加する可能性があります。 そうした地域特有の将来的な宅地開発の可能性が、今回の編成にどう加味されているのかが不透明です。 【理由】 ① 少子化は変動が大きく単一予測ではリスクが高い ② 宅地開発による児童増の可能性を考慮していないと感じる ③ 予測が外れた場合に柔軟に見直せる仕組みがありますか？	本計画素案（暫定版）2ページ目でお示していますが、計画の柔軟性を持たせるため、5年ごとの見直しを予定しています。 また、毎年行う児童生徒数の将来推計の更新結果が大きく想定を外れるような場合には、前倒しで見直しを行うことも視野に入れています。
102	72	5. 財政計画・跡地利用の不透明さ 財政負担と跡地利用の全体像が示されていません。 中学校を小学校へ転用する改修費用や廃校・移転後の跡地利用に関する、財政的なロードマップを住民に明確に開示することを求めます。 公金が投じられると思いますが、お金に関する全体像が伏せられたまま計画だけ進めるのは、住民に対しての説明が欠いていると感じます。 【理由】 南中学校の劣化状況と改修費用、栗原小の建て替え費用の比較がありません。 跡地利用計画が示されていない 売却するのか、公共利用するのか、収益を再編費用に充てるのか 財政の全体像が不明なまま計画が進んでいると感じます。	再編に伴う整備コスト等については、12月に作成予定の原案でお示しする予定です。 なお、跡地利用の具体的な内容については、まちづくりや公共施設全体の再整備とも関わるため、再編計画の策定後、庁内横断的に検討していきます。
103	72	6. 歴史的価値・地域感情への配慮不足 歴史ある学校の名称・伝統・地域・地元の方の思いへの配慮が不足しています。 市内でも古い歴史をもつ学校への愛着や地域コミュニティを軽視せず、住民との丁寧な合意形成を図っていただきたい。 歴史ある学校は単なる公共施設ではなく、何世代にもわたり地域住民が築いてきたアイデンティティそのものです。 【理由】 1. 座間小・座間中は市内最古、栗原小は2番目に歴史のある学校です。 2. 「座間中敷地に相武台東小学校を移す」など、名称の扱いが不明で不安、配慮に欠けています。座間中のすばらしい校歌が変わってほしくありません。 3. 地域のアイデンティティを軽視した計画に見えます。	校名・校歌など伝統の取り扱いについては、計画策定後に、地域や保護者等の関係者で構成する、「（仮称）〇〇学校区魅力ある学校づくり準備委員会」で慎重に検討すべきものと考えております。
104	72	7. 計画決定から実施までのスケジュールが現実的でない点について 素案では、2027年2月に計画決定、同年4月に実施開始とされていますが、学校再編に必要な工程の多さを考えると、わずか2ヶ月で全て完了させることは現実的ではありません。本来であれば、段階的な実施や移行期間の設定が必要ですが、その具体的な説明が素案には示されていません。 財政計画・施設改修内容・通学路の安全対策など、重要な前提条件が未確定のままスケジュールだけが先行している印象を受けます。 これほど地域を二分する重大な計画を、住民や保護者が十分に納得・議論する猶予もないまま進めるのは不誠実です。 住民と保護者が安心して判断できるよう、段階的な実施計画や移行期間の設定を含め、十分な時間を確保した丁寧な説明を求めます。 形だけのパブリックコメントで終わらせず、もっと時間をかけて住民保護者説明会を重ね、丁寧な合意形成を図るべきです。	具体的な再編スケジュールについては、12月に作成予定の原案でお示しする予定です。 再編には調整や協議等に数年間要することから、すぐに再編を実施することはありません。 なお再編の際の移行期間等については、小学校6年、中学校3年の期間を設け、再編の影響が少なくなるよう努める想定です。

No		意見	市の考え方
意見	提出者		
105	72	8. まちづくりの将来のビジョンと学校再編の整合性について 学校再編は本来、座間市としての中長期的な「まちづくり」の方向性と一体で検討されるべきですが、素案にはその将来のビジョンが示されていません。都市計画と整合しないまま、学校だけを動かすことには強い不安があります。 【理由】 今回の学校再編と、座間市としての今後の「まちづくり」との関係性が、素案からは読み取れません。 人口減少の見通しや住宅開発の方向性など、都市計画の要素が示されない状態で、学校だけを再編するのは、大きなリスクを伴います。 まちづくりの方向性が不明確なまま学校配置だけを変更すると、将来の人口動態や地域構造と整合しない「場当たりの再編」になりかねません。 座間市として、中長期的な都市計画や人口動態を踏まえた将来像をどのように描いているのか、説明を求めます。	学校は地域の核となる公共施設であり、まちづくり・公共施設マネジメントなどと整合した検討が不可欠と認識しております。 なお、本計画素案（暫定版）は、教育委員会以外にも、政策、財政、公共施設マネジメント、地域コミュニティ、都市計画といった担当などから構成される分野横断的な検討体制で、学識経験者からアドバイスをいただきながら1年間に渡り、慎重に検討を重ねて、作成しています。 本市の最上位計画である「第五次座間市総合計画」と整合を図ることで、市全体のまちづくりと整合を図っていきます。